唐土名勝圖會

京師

一

唐土名勝圖會第一集卷之一

目次

序　引用書目
凡例　目録
輿地圖説　輿地
歴代帝都　直隷
直隷全圖　京師全圖
京官　外官
京師順天府
大内全圖　大内

TALL TREE
LIBRARY
Japanese
Maps
1806
6-22

唐本照合
文化新刻

唐土名勝圖會初集

浪華心齋橋
龍章堂書坊
新刻發兌

漆山文庫

享和三年癸亥臘月上輪官准

文化三年丙寅三月海宇發行

唐土名勝圖會序

海宇之无極。五氣唯布於其間。地平天成。古今覩其理。而述論著人事。野史家〻之類。演義稗錄。稽助風諭。翼彝倫矣。上自金門玉堂膏粱紈袴之藻。下市朝嘈〻之口語。乃至情郎麗女之繾綣。

者書述其意焉者圖象其形焉雖不可盡信然其大抵則便原易詩書春秋等之攸既道以爲據焉寔復善裨於格致之業也邪矧伊　皇朝以德澤綏海内以仁恩懷四夷凡圓顱方趾之族雖外洋萬里莫不集方土之貨利來率從風向化矣故東西兩都家冨階

珠人懷荊璧。於是儳入於藝林者。尚要饒舌
肆搜奇篋也。適至好事者。舉遺美於筆
葉之間。往々造名勝圖會。蠲資附梓以賞
世之嗜古者。以鳴國家之潛德也。若夫神
怪佛詭。不敢妄拾人牙頰餘唾。爲屬者遂
逮彼淸國之廓爾喜謝。王后之拱位內殿

之舊儀巡行之捨度其他勝地名山以圖說傳者志書與略之類殫輯而較之使老畫師分毫不爽寫之或圖呈細大雜於勻配則縮為合之又衍而兩之其所有者正不必有至所無者正不必善矣以小說數言悉譯之大約讀是書者儻能探賾以領茲旨

然權度在我爲則縱令其辭淺俗豈可
措也哉況今車書混一之久叨叢淺陂國
秘不踰几席而賦諸斯也則典故紀聞粗
有資爲覽者審諸

文化二年龍次乙丑秋八月穀旦

播州　興田元龍

唐土名勝圖繪序

近時坊刻嘗有某名勝圖繪之書。盛行乎世。於是羨風效顰者。從踵競興。蓋亦陳而滯者。偏而僻者。分而未合者。缺而未完者。革以新之。周以正之。合以一之。補以備之。盡皆改冒以名勝之目。而其編輯之體。間象之製。十九皆是其副墨之子也。如是書。其實紀西清京師及直隸。山川風土。宮垣

府廨寺觀景勝人物故事譯以通之圖以象之其紀譯之所出並皆用識略會典盛典諸書以爲其據而細舉縷列曲委詳盡其輯述之功可謂勤矣而其標以唐土名勝之目者乃尔洛誦之孫故耳或疑如他名勝圖繪並皆我土之所有按其圖可以推其實訪其人可以究其信焉矣如此圖繪壞異物夐寶無可由推信無可由究焉

則安知其中無有無何有之郷焉有之山川宮觀乎余曰是徒技心之言不察諸其物也古不言乎無情者不能盡其辭此書以其紀譯之詳圖象之悉且以其用工之費日鏤板之費力度之尓可以知其非無據妄撰者也且夫如我土諸名勝雖在遠僻之境者吾或可以躬詣而親訪焉則其圖象也紀述也有時可以覈焉矣如是書

所圖述地已不可得影諸事又不可得親訪則其於或欲識之風土景勝以博其智者也此其爲必用不可廢之書者寧與彼諸圖繪可同日而論也乎哉刻者乞序因爲題

享和四年春正月既望

皆川愿書

唐土名勝圖會序

爲唐土名勝圖會者世爾學創之至也討論之圖象之態吾東都左右之擴搜百代序之曰所謂圖會者景象之圖象之不可以已也其如是其能發启者醒河嶽發名勝發者也河圖洛書邈居邑宰執挽泥虛姓下球地圖列者

闕室自廟而陵寢臺榭閣道廿文外樓遊與夫宮殿歷觀彼兵會峰古今者孔是不能也先日存金底之之圖象也山川草木地之圖象也禮樂衣裳人之圖象也而書存乎今古然無守君舜黃更古搖高撰小圖傳法備祖日在存誌桃

迷而激排及館地之閑挂之手而遊可知迹盡蓋志札乞不能也二者然之發爲圖象之所以不可已者務之也然其人拿筆生動纏營墨經發之當節即陰絶佳焉依然君閒力手畫者而屬伎之當色彩學取興亦流倣以爲自得者之圖象風盛爲象也而

未及形而下者謂之器北象劍之討論之以修飾以潤色則何以加威儀抑ゝ和鸞鏘ゝ進退維都豈不可謂之形而上者乎尋所謂圖象之不可以已者其是之謂而已矣乎於此擧也世肅學劍之至山乃以遊岳東經閲象之討論修

闔之事亦不爲而已哉予於是謂
今此材唐名勝圖會者多歷貫
將序者妄乎衞乎吾唯序之
不悅爾世爾名孔宗彌葛藪
堂名聲藉甚博物多人也玉山
進展東涇多志能手冊書沿筆
人乎里翁嫣於系志也

文化乙丑之春泉州桂坡
巧民書於浪華僑居一
樓之窗

引用書目

天下輿地各省全圖
輿地一統各府全圖
宸垣識略
欽定大清會典
皇朝禮器圖式
欽定萬壽盛典
欽定南巡盛典
欽定三禮義疏
欽定授時考
欽定靈臺儀象志
十六省名勝通志
名山勝槩記
遊名山記
五岳遊草
日下舊聞
燕都遊覽志
客燕雜記

山海經
水經注
佩文詠物詩選
御製詩文集
國朝詩別裁
二十一史
明史
魯班經
海內奇觀
輿地志
佩文齋書畫譜
列仙傳
劉向列女傳
大明一統志
三才圖會
古跡記
宣和畫譜

順天府志
保定府志
廣平府志
順德府志
宣化縣志
正定府志
大名府志
河澗府志
天津縣志
永平府志
方于魯墨譜
太湖備考
方輿勝覽志
寰宇記
輿地紀勝
郡國志
圖繪寶鑑

凡例

一斯書題するに斯名をもてするは皇和の諸名所圖會に蠅附するに何らば彼土の廣袤なる一擧に盡にあらば姑く京師直隷部と編述し日月を經で歷擧せんと蟄して今より題するに唐土の名をもてし且始より終に至る迄土地人物歲時器財ことごとく名勝に何らざるはなきが故に從斯名を冠するのみ

一斯篇凡て六巻首に巻は京師後の二巻は直隷部とすうち首に巻の中先古今の沿革を述輿地の全圖を縮出し彼土に風と彼土の方位の大概と

しるハ次に大内次に皇城次に外城次に苑囿郊坰を記され大略既に立く率立門を立て末に及ん意なり後の二巻の順天府を始とし諸府を後によし諸州を附記するも意同じ

一每巻首に總圖を置是を總して主とする所に始め方位に随て順叙し府城に始て縣に及び州に及べるも意上同のごとし

一總の縮圖ハ輿地の全圖輿地志ハ一統志京師の位置を宸垣識略直隷部ハ諸州府志禮樂祭祀公事式目ハ二部の盛典及び大清會典器財衣服ハ禮器圖式靈臺儀象志等よりでき故ず人物居處山水草木等

に及ぶまで有用の諸書に照し異同援考し彼此と互證し毫も杜撰せざる徴に引用の書目を首に録する事志かり

一古今の詩を徴とせずして殊に吾邦近時諸名家の書を請てぐく落款を明かにする千歳の知音千里に接踵の風流を集覧せば亦愉快ならずや

一毎巻目録に就く諸名勝をとゞめ毎部の終に就て古人の産地事業をとゞめこれと總図に照しらば直隷部京師其方道を掌に指がごとし讀史家及び博物者流に於て廣叢は小補あらん歟唯外遊にのみこれ備るあらんや

唐土名勝圖會巻之一目録

輿地圖說
輿地全圖
歷代帝都
直隷
京畿直隷全圖
京師全圖
京官
外官
京師順天府
大內
皇帝夏朝冠服像
皇后冬朝冠服像
午門
太和門
太和殿
中和殿
保和殿
內閣
誥敕房
起居注館
文華殿
傳心殿
大庖井
文淵閣
上駟院署
箭亭
御茶膳房
三座門
擷芳殿
御藥庫
國史館
鑾駕內庫
戶部內庫
東華門
武英殿
尚衣監
器皿庫
咸安宮
筩子河
三通館
方畧館
回子館学
緬子館学
內務府署
廣儲司署
御書署
磁器庫
南薰殿
西華門
乾清門
乾清宮
昭仁殿

弘徳殿
交泰殿
神武門
鍾粹宮
景陽宮
乾東五所
敦本殿
翊坤宮
長春宮
延慶殿
穿堂
兆祥所
雨華門
城隍廟

端凝殿
坤寧宮
東一長街
東二長街
蒼震門
仁祥門
陽曜門
儲秀宮
咸福宮
撫辰殿
御膳房
慈寧宮
宝華殿
祀馬神所

上書房
坤寧門
景仁宮
延禧宮
内庫房
齋宮
西一長街
西二長街
乾西五所
西花園
奉先殿
壽康宮
中正殿

懋勤殿
御花園
承乾宮
永和宮
天穹宝殿
毓慶宮
永壽宮
啓祥宮
重華宮
養心殿
寧壽宮
壽安宮
英華殿

唐土名勝圖會卷之一

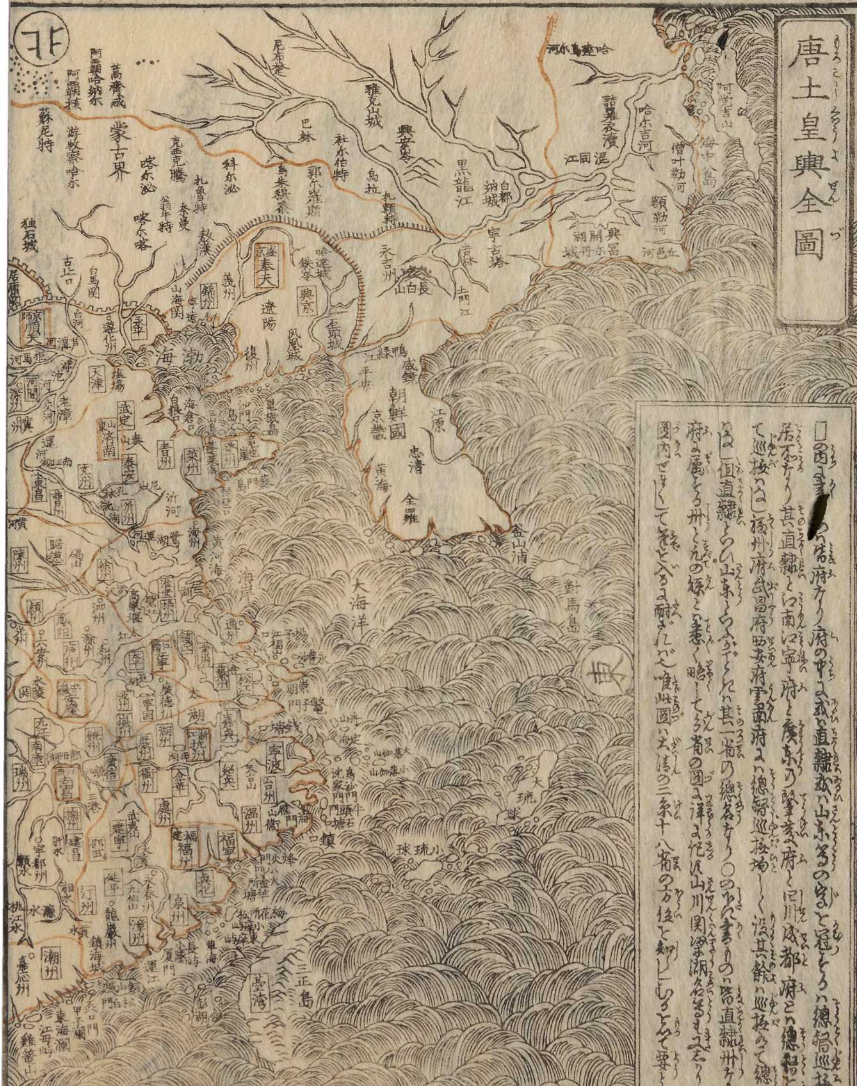
故蒹葭堂木世肅先生遺意

編述　法橋　岡田玉山尚友
　　　　　　岡　熊岳文暉　仝
　　　　　　大原東野民聲　畫

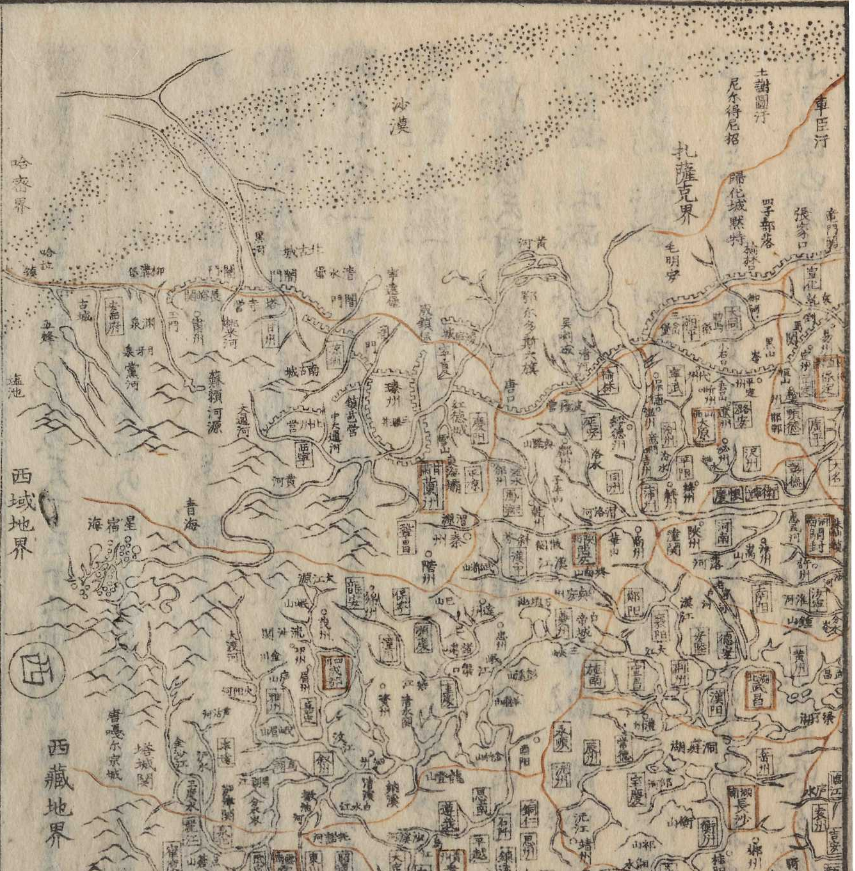
唐土皇輿圖之說

日本國より唐土と唱ふる國は亞細亞州の中にして北極出地二十四五度より四十二三度に至る大國なり。往古、伏羲、神農の天下を治め給ひし時未だ國號を定むる事なし。帝堯初て國を唐と號け給ひしより、彼國を稱して唐土と呼ぶ。李唐の時、日本より高官の臣に命て物學びのためとて入唐せしめ給ふ。吉備公、仲麻呂が類これ也。されば日本にての大内裏は唐の大内に擬ひて営を造らせ給ひけり。かく日本と唐朝と往返繁かりしより、堯の代の唐と李氏が唐と同稱なるを以て彼國をさして唐土と呼び、代々彼國は國號を異にしたれども、日本より改めて唱ふる事なし。又彼國よりも日本に對して大唐は必ず己が國を唐と稱ふる事あり。假令詩文にも賞揺（日本盤詭唐土は桃なり）。堯天下を分て九と為し是を堯の九州といふ。舜は堯の

唐土皇輿全圖


北
東
蒙古界
黑龍江
烏拉
寧古塔
吉林
長白山
興京
奉天
遼陽
鳳凰城
復州
義州
錦州
山海関
古北口
渤海
天津
朝鮮國
京畿
江原
咸鏡
平安
忠淸
黃海
全羅
鴨綠江
混同江
海中島
金山浦
對馬島
大海洋
大琉球
小琉球
太湖
寧波
台州
温州
福州
泉州
漳州
潮州
廈門
臺灣
澎湖
三正島

□の図に書[illegible]は皆府なり府の中に或は直隷或は山東等の字を冠らするは總督巡撫の居所なり其直隷とは江南江寧府と廣東の肇慶府と四川成都府とは總督と巡撫をかねて巡撫はなし福州府武昌府西安府雲南府には總督巡撫均しく設其餘は巡撫のみにて總督なし但直隷といひ山東といふごときは其一省の總名なり○の中に書ものは皆直隷州なり府の屬する州とその縣とは悉く略してみな省の圖に詳に記す山川關塞湖名等もまた然り是圖内せまくして委く入るに耐ざればなり唯此圖は大淸の二京十八省の方位を知らしむるを以て要とす


沙漠
哈密界
扎薩克界
土謝圖汗
尼尓待尼招
車臣汗
歸化城
四子部落
毛明安
張家口
黄河
鄂爾多斯六旗
嘉峪関
蘇賴河源
大通河
西寧
蘭州
寧夏
榆林
大同
太原
保定
西安
開封
青海
星宿海
西域地界
西
大渡河
金沙江
成都
漢中
襄陽
武昌
洞庭湖
長沙
重慶
貴陽
雲南
桂林
廣州
西藏地界
瀾滄江
安南國地界
瓊州

讓を受て國号を虞と改め天下を十二州に分給ふ。是より代々の天子國号を變じ州郡を改め衣冠の制より官爵の名に至るまで改ざるはなし。禹王天下を治め給ふに國を夏と號す。九州とし相繼で殷周秦漢三國両晉南北朝隋唐五季宋元明より今の清に至りて或は舊に治或は新に革め其制度ことごとく一ならず。清の順治帝明を討て天下を定め康熙の御代に至て四夷八蠻を統一し國を分て二京十八省とし大概明の制度によれり。

京師順天府　盛京奉天府　直隷　山東　山西　河南　江蘇

安徽　江西　福建　浙江　湖北　湖南　陝西　甘肅　四川

廣東　廣西　雲南　貴州

已上を二京十八省といふ。日本に五畿七道と分がごとし。抑唐土の地形たるや東は小東洋の滄海にして北は萬里の沙漠あり目も及ざる廣き沙原まで一根の草に

且其を所謂不毛の地これなり。沙漠の北は皆胡地にして代々中國に寇せる者而も一ならず。夏の時に寇する狄を獯鬻といひ殷に犯せるを鬼方といふ。周よりは玁狁といひ秦漢には匈奴といふ。唐に突厥宋に契丹各中國の患とせる處なり。秦の始皇其臣蒙恬に命して西のかた蘭州より東は遼東に至り萬里の長城を築きて以て北胡を防ぐ徒とせり。而れども時勢は人力をもて禦ぐあたはず。遼・金・元各胡國より出て燕冀の間に都を遷す。今の清は東北の蒙古滿洲の夷なれども明朝祚熹の無道を討闖賊を滅して義を稱へ兆民を撫し遂に中國の正統を繼て萬代の基業となせり。さればいにしへ遼東遼西の地は偏僻の所と稱すれども今清の本國に通ずるをもて當時盛京奉天府の國となる古と同じからず。扨西のかたは大流沙を限とし西域に接し南は安南交趾に連り瀕する大洋中には呂宋亞媽港などの臺灣あり。凡地方六千余里（日本乃六）

（百余里にあたる天下の里数是に準じて知るべし）此時乃気候偏ならず。人物亦其所を得、五穀よく登り、名山名勝峯たゞならざれバ。東流せる大河ハ黄河漢江の二流を冠とし、淮河濟江と四瀆とす。黄河源ハ西蛮の地崑崙山の西南星宿海より出て北流して塞外を環て、南に折、陝西山西の界、龍门山を瀧となして落下里、江南に流れて東海に入る。漢江ハ蜀の岷山より出て、屈曲千里、金沙江、大渡河、其余大小の河水合流し、江南に至りてハ揚子江と称し、河の廣さ又十余里、天下第一の大河なれバ、名山ハ五岳、五嶺、天台、雁宕、武夷、廬山、羅浮山、峨眉山、点蒼山等をはじめとし、奇岳霊山の聳峙る蒼天に星の群り照がごとし。又江南の地ハ唐土第一の勝概、京口の三山、銭塘江、西湖、浙江乃風色、蘇州、杭州乃繁華、悉くのべがたし。江に溯て武昌府に洞庭湖あり、蘇氏が賦せし赤壁も又ある。岳陽樓、滕王閣も此辺りにあり。蜀の棧道の険なる天下の甲とし、長安洛

陽の舊都ハ未英安房のいふしへをおりひせり山東兗州府ハ春秋の魯國にて今も孔林に聖廟ありて猶りほしますなぞ是等しそも名勝故跡事実にあるや爰に擧て云ふるに限りしぞ編中各省の其余下に続て画図と文意を相照して其委細を知べきなり先開巻に輿地の図を並べ唐土全國の方位を知らしめ次に直隷の一省を圖して京畿の府と州と縣と山川と関梁との位置を定め次に京師の總図を出して五城の分列八旗の居址を明にし次に大内の全圖ありて外朝内宮門殿樓閣の連續せる次第を詳にし其大内の正南午門よりして九重門殿及び皇太后皇后妃嬪御の居所百寮の侍直せる諸府署の預處文淵武英の殿閣より酒醋房幷皇廟にいたるまで分ちて審に圖記し凡首巻ハ大内を載て巻と為し第二巻ハ皇城を詳にし三巻ハ内城四巻ハ外城苑囿郊坰五六巻ハ是よりてハ直隷省の勝槩を諸府毎に全圖を

並て屬せる州縣。山川。宮室。公署。關梁。寺觀。祠廟。古蹟等の位置を知らしむ。此一編纔に直隷一省に總る。山東。江南及び諸省は次編に次第して撰び載べし。希は全編成るの後て熟讀せば唐土の地理に於る。粲然と掌中を見るが如くならん。

歴代帝都

歴代帝王の都せる地を考るに。伏羲は陳に都を建。（陳は今の河南の陳州府なり。）神農の都は伏羲と同じ。或は曲阜に都をとくともいへり。（曲阜は今の山東の兗州府なり）黄帝の都は涿鹿。（今の直隷の涿州なり）少昊の都は曲阜。（上に見ゆ）顓頊の都は帝丘。（今の山東曹州府の濮州これなり）帝嚳の都は亳。（今の河南河南府の偃師縣なり）唐堯の都は平陽。（今の山西の平陽府なり）虞舜の都は蒲阪。（今の山西蒲州府これなり）夏の都は安邑。（今の山西平陽府なり）商の都は亳。（上に見ゆ）周の都は豐鎬。（今の陝西の西安府なり）東周の都は洛邑。（今の河南の河南府なり）秦の都は咸陽。（今の陝西西安府也）漢の都は洛陽なり。後に長安に移る。（洛陽は今の河南の河南府。長安は上に見ゆ）東漢の都は再洛陽に及。三國の魏の都は鄴。（今の河南の彰德府の臨漳縣なり。後洛の地に移せり）吳の都は建業。（今の江南江寧府なり。後に湖北の武昌府を都とす）蜀の都は成都。（即四川成都）西晉の都は洛

陽（上に見ゆ）东晋は建業を都とし。（建業ハ上に注せり）宋齊梁陳の都も倶に建業。（も上に見ゆ）隋の都は長安に建。後洛陽に移し（長安洛陽皆上に見ゆ）唐も都を長安に建。宋は都を汴に建。（汴は今の河南開封府なり南宋の都を浙江にうつせり）遼。金。元。明の都は均く今の京師順天府（遼は析津府といひ金には大興府と改め元は大都と號し）（稱し。明は順天府とし。明の始の都は南京應天府に立今の江南江寧府これなり。）清朝も又都を順天府に定め。今の京師は明代の北京なり。此地宛平大興の二縣に跨る。北極星地を出ること三十九度又十八分。左に滄海を環し。右に太行を擁し。北は居庸の固関に枕し。南は河濟の流を襟とし。形勢天下の甲たり。誠に天府の國といふべきなり。

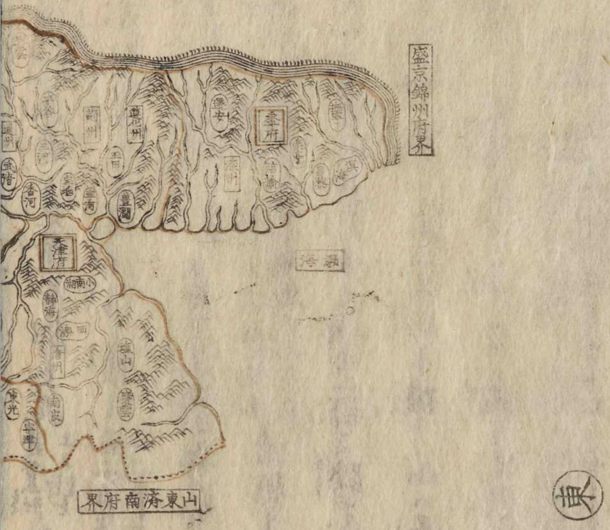
直隷

（直隷とは吏部。戸部。禮部。兵部。刑部。工部の六部に直に隷する之隷は附き稱して其下知に屬し着をいふ故に京畿をさして直隷といふ）京畿の地たるや。東は海に至り。南は山東を界とし。西は山西に接し。北は邊塞に控り。東北のかた山海関に達し。西南は江南に距る。

保定府（領州二縣十五）永平府（領州一縣六）河間府（領州一縣十一）天津府（領州一縣六）正定府（領州一縣十三）順德

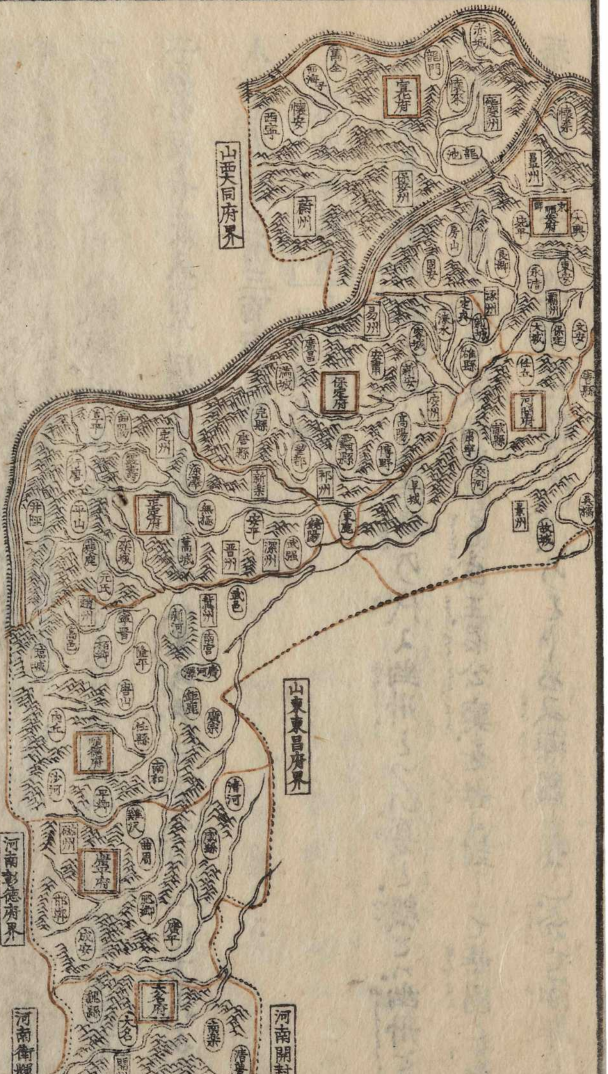
直隷全圖

□ 府
□ 州
○ 縣


盛京錦州府界
永平府
遷安
撫寧
灤州
昌黎
臨楡
樂亭
遵化州
薊州
玉田
豐潤
寧河
寶坻
香河
三河
平谷
武清
天津府
小南湖
靜海
滄州
鹽山
慶雲
南皮
東光
寧津
渤海
山東濟南府界
東

京師ハ即ち大興、宛平の二縣なり。順天府に尹を設て郡縣の政を統しめ、本省保定府には總督を設て巡撫と順天府のことを兼攝し、京畿の政令を掌らしむ。これを直隷省といふ。永平府、河間府、天津府、正定府、順徳府、廣平府、大名府、宣化府に各知府を設て總轄に隷し、又州に知州を、縣に知縣あり。各知府の轄に隷して均しく政刑を治む。遵化州、易州、冀州、趙州、深州、定州の六州ハ知府に隷せずして直に京師に隷し、故に直隷省の内にありて又直隷州と稱し、各知州を設け、所屬の縣に知縣を置く。

7


山西大同府界
山西大原府界
山東東昌府界
河南彰德府界
河南衛輝府界
河南開封府界
宣化府
順天府
保定府
河間府
真定府
順德府
廣平府
大名府
赤城
龍門
萬全
西寧
懷安
懷來
延慶州
保安州
蔚州
昌平
房山
良鄉
涿州
易州
淶水
定興
雄縣
安肅
新安
高陽
博野
祁州
新樂
定州
深州
晉州
趙州
冀州
故城
清河
大名
東明
長垣
清豐
南樂

府（領縣九）廣平府（領州一縣九）大名府（領州一縣七）宣化府（領州三縣七）遵化州（領縣二）易州（領縣二）北冀州（領縣五）趙州（領縣五）深州（領縣三）定州（領縣二）以上府九州六是を直隷と云。（明代直隷）の地順天府大興宛平の外府七州二あり又元の宣寧州山東路乃總管府を置し地に萬全都指揮使司を置く。延慶龍永寧保安の州縣を統せしめ京師と倶に十一に分てり清朝新に天津府を置萬全都指揮使司をはぶきためて宣化府と改真定府を正定府と改め別に直隷州六を置延慶保安の二州ハ宣化府に屬せしむ。凡直省乃民田七百八万余一百四十二頃八十八畝賦銀二千九百六十一万二百一兩糧八百四十万六千四百二十二石合有奇草五百十四万五千五百七十八束民戸三千八百八十四万五千三百五十四民口万有三百有五万。

京師順天府（易曰湯武順乎天而應乎人）

此地唐堯の時幽都と稱し虞舜の代に幽州といひ夏と殷とハ幽州を省て冀州に入る周に至て復幽州を置武王召公奭を此に封して燕國と名く秦ハこれを上谷漁陽の二郡とし漢乃はじめに燕國となし分て涿郡を置

帝。元狩年中改めて幽州と号し。それより以来或は廣陽といひ或は范陽といひ又幽と稱し。燕と唱ふ。遼の太宗會同元年。此地に始て都を遷南京析津府と名く。（城の廣さ方三十六里高さ三丈敵樓戰櫓を設け凡方に八の門あり。城の南隅に皇城あり皇城の内に大内あり。門殿乃名これを畧す）宋の宣和年間にいたりて燕山府と名く。（府城周回二十七里樓臺の高さ凡十尺なり櫓九百一十座池濠三重に繋り城門八を開なり）金の貞元元年。金主亮此地に幸し。遂に燕京と稱し。又中都と号し。析津府と改め名て大興府とし。即此に都を定む。（都城の周圍七十五里凡方に十二の門を開く内に宮城あり四周九里三十歩南門を宣陽門といふ中の門には五鏤の龍を画き車駕出入の外は堅く閉て開くることなし。左右の門には鳳を画き両門まては日月を画く。文武官の出入とゐるしむ。凡九重の殿三十六の門七宝珠玉をちりばめ。正中を皇帝の正位とし。後を皇后の正位とし。東に内苑と称するあり。西に十六位と名るあり。乃ち妃嬪の居る所なり。其外大安殿仁政殿元和殿崇武殿[illegible]後見奏事。錫宴。観村乃東方なり。内城の西華門外には同楽園瑤池蓬瀛等の苑囿あり。妝飾ことごとく）

元の初年。此地を燕京路と号し。世祖の至元四年闕を此に定め中都の北三里に都城を築き改め名て大都路といふ。（京城方六十里二百四十歩凡方に門を開くこと凡十一正南を麗正門といふ。左を文明門右を順承門。東の北を崇仁門といふ。東の南を齊化門。東の中は光熙門なり。西は和義門といふ。西の南を平則門西の北は肅清門北には二門あり。健徳門安貞門といふなり。○宮城は周九里三十歩甎を甃してこれを築き四の門あり。正南を崇天門といふ。左を星拱門。右を雲從門。東方を東

華門といひ西方西華門とし北の方玄武門と名く。南面崇天門の内白玉の石橋三あり其北に大明門あり。左には日精門右に月華門あり。正中は大明殿廣さ十一間深さ九十尺。後に延香閣あり中に七寶雲龍の御榻を設く又寶座の寢室を設く其後は寶雲殿なり。西廡の中を麟瑞門といひ東廡の中を鳳儀門といふ。其周廡の長さ一百二十間。又後に延春門あり。其中を延春閣といひ閣の左に懿範門右に嘉則門あり。又閣の後を香閣といひ大明殿より東に文思殿あり西に紫檀殿。慈福殿の其東は明仁殿。左の廡中に景耀門あつて門の南を鐘樓といひ右の廡中には清灝門あつて門の南に鼓樓あり。玉徳殿は清灝門の外にあり。宸慶殿は玉徳殿の後にあり。其後の左右には香殿を建らるなり。其外光天殿・翥鳳樓・騎龍樓・壽昌殿・嘉禧殿・針線殿・文徳殿・楠木殿・盝頂殿等の宮殿の門あり。闈廡の後に侍女の直廬及び浴室を設け。宮垣の西南の隅には酒房あり東南乃隅には興聖宮あり前に興聖門あり。凝暉樓・延顥樓・嘉徳殿・寶慈殿等ある東西廡の前にあり。後には延華閣。其右に畏吾兒殿あり。殿の後に妃嬪院といふ。又奎章閣は興聖殿の西の廊にあり。至正の後のちに閣の名を改めて端本堂といふ。其側に秘密室（と云舎なり）

明の洪武の初年大都路を改めて北平府とし。（元の都城を北のかたへ五里縮め東西の小門光熙肅清の二門を廢し。殘る九門は舊制に差がへ）永樂年中都を此地に移されし北平を改めて順天府と號し京城を築別に稱して北京といひ。舊都金陵の地に應天府を置き是を南京と稱し（京城周圍四十里四方の門九。南面に麗正門文明門順承門あり。正統の初年麗正門を正陽門と改め文明門を崇文門と改め順承門を宣武門と改む。東西面は齊化門東直門あり。是も正統に齊化を改めて朝陽門とし。西面は平則門西直門あり。此平則門を阜成門と改む。北面は安定門徳勝門あり。此二門は元代の安貞門健徳門なり。永樂の間既に是を改めたり。嘉靖二十三年京城の南面に包城を築かる。即今の外城なり。長さ二十八里七の門あり。南を永定門左安門右安門といひ東を廣渠門東便門西を廣寧門西便門と云。）清朝順治の初め順天に都を建順天府署を内城

の安定門の内に設け。京畿の治理を掌しむ。（順天府署に管轄せる官人を尹と稱し尹が副を丞と稱し各一人。府学教授滿人漢人各一人訓導滿人漢人各一人。）凡順天府は大興。宛平の二縣に隣て。通州。昌平州。涿州。覇州。薊州。良郷縣。固安縣。永清縣。東安縣。香河縣。三河縣。武清縣。宝坻縣。寧河縣。順義縣。密雲縣。懐柔縣。房山縣。文安縣。大城縣。保定縣。平谷縣。以上五州十七縣順天府に屬する所なり。順天府の界なる所は東は永平府（直隷に属せる府なり）の灤州に至つて三百九十里。（清朝乾隆十八年天下に直隷州を定めらる。明代順天府に属せる遵化縣を州となし玉田縣豊潤縣を併せて直隷州となし都畿の東二百八十里玉田縣の界を即順天の界となせり。）南は河間府（直隷に屬す）任丘縣にいたり三百五十里。西は山西の大同府蔚州（蔚州は今直隷の宣化府に屬す）に至つて三百五十里。北は延慶州（宣化府に屬す）の界にいたる。一百六十里が間京師順天府に屬する所なり。

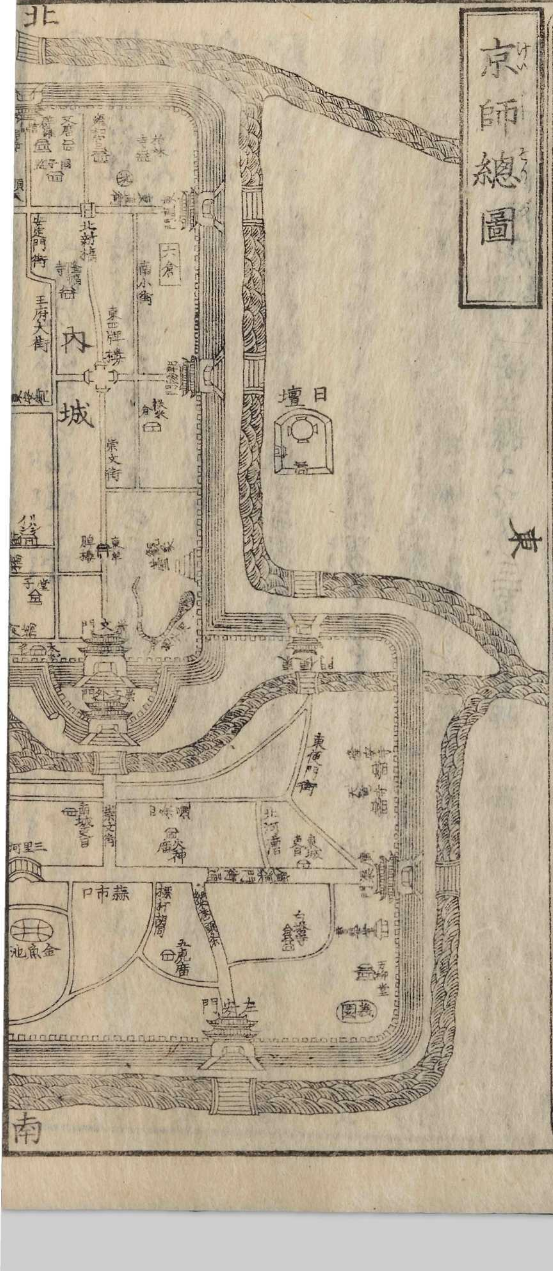
京官

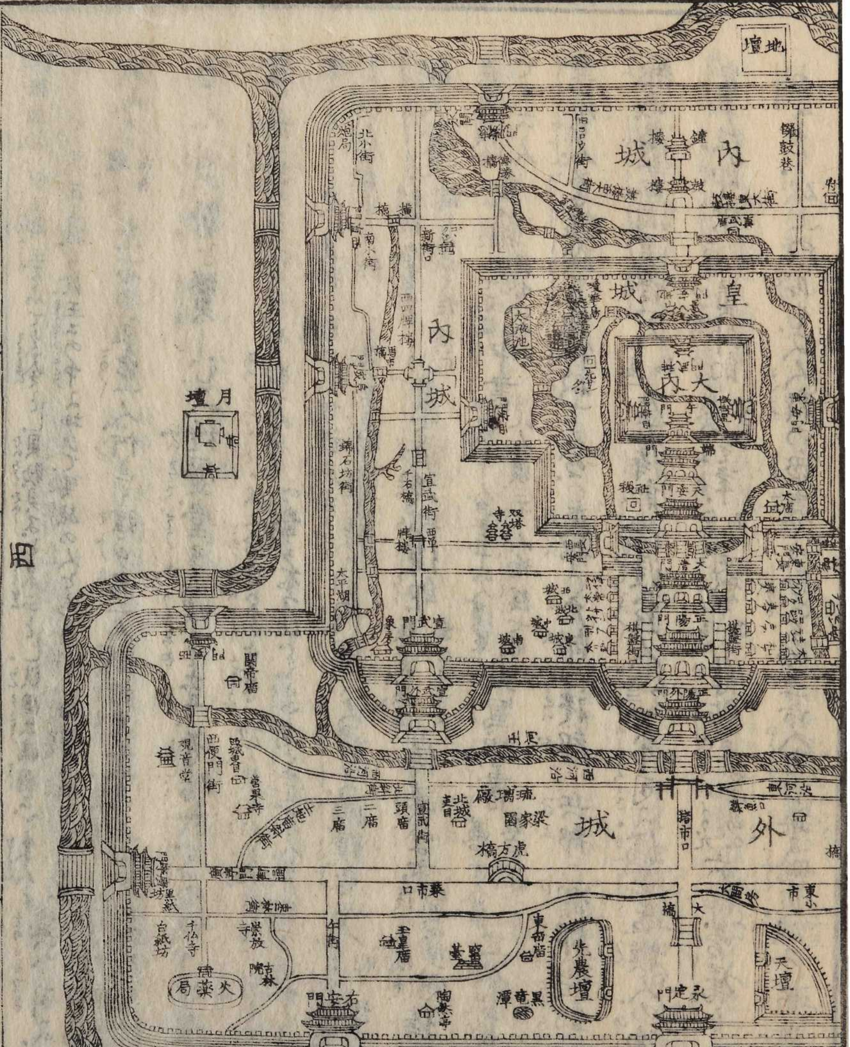
（京官とは。都の中にありて。天下に政令を執行ふ官人といへり。悉く各省に行て軍民を治め。刑政を行ふを外官といふ。次に志るす。）

宗人府に宗令一人。左右宗正各一人。左右宗人各一人を置て皇族を統掌しむ。

京師順天府に尹を設け。大興宛平乃二縣に。知縣を設るといへども。居民繁くして多く政令の行れざる
ゆゑに。南城北城中城東城西城の五城にわかち。城毎に察院署を設けて御史官を此に居しめ其下司に
兵馬使指揮副指揮吏目等の官人ありて京師の居民を巡り警む。宋の時巡警の官をさして
都廂といひ元にて巡警院といふ。清朝其五城毎に数箇の坊を設け。市民の詞訟を上官に告し。
風俗の是非を審にし善者を上に告く。或て教養を布く。此五城をわかち坊を置は明の舊制に係る。
明の時内城を中東西北の四城とし外城を南城とし。清朝は皇城内城を五城にわかち察院署を設外城
をも又坊にわかち指揮吏目乃署を置内外城ともに又城にわかてり。故に名は五城にして屬する所は十にわかてり。

京師總圖


北
東
南
日壇
内
城
北新橋
南小街
崇文街
王府大街
東四牌樓
崇文門
金魚池
三里河
天壇


地壇
内城
鐘樓
鼓樓
鑼鼓巷
北小街
南小街
新街口
西四牌樓
内城
皇城
太液池
大内
月壇
錦石坊街
千石橋
宣武街
西單牌樓
雙塔寺
太平湖
象房
宣武門
正陽門
關帝廟
觀音堂
西便門街
琉璃廠
梁家園
外城
虎方橋
珠市口
菜市口
東小市
天橋
先農壇
天壇
黑龍潭
陶然亭
崇效寺
千仏寺
白紙坊
火藥局
右安門
永定門

清朝國初ハ親王郡王をもつて宗令とし貝勒貝子を宗正とし鎮國公輔國公を宗人とせしが今ハ其才器ニ擬らバ王公の中ニ拘ひて賢能の人をえらひく此官ニ任ずるなり。其下司ニ府丞一人あり（漢人を用ゆ）左右の司各一人何レも理事官二人副理官二人主事二人（宗室ハ宗室を用ひ覺羅ハ八旗の中より任じ用ゆ）あまく司の務を贊しむ又經歷堂主漢主事筆帖式等の職ありて就ハ文書就ハ冊籍などのくるを驗掌する（以上各官ハ宗室或ハ旗員を任ズ凡宗室の爵秩陞降ハ吏部の掌る處なれども宗令宗正宗人等ハ皆王公の親しき者なるゆゑ其職を天子より受て吏部ニ隸せズ惟漢府丞と司屬の本旗員の中より任ずる者ハ皆吏部の令ニ從ふ）○内閣ニ大學士滿漢各二人（古の相臣宰相と同じ。從ハ正一品）協辦大學士（各部尚書の中より簡用し兼て從ハ從一品）學士兼禮部侍郎（從二品滿漢合せて十人）侍讀學士（從四品滿洲蒙古合て六人）侍讀（正六品滿洲蒙古漢軍漢合て十六人）典籍（正七品滿漢合六人）中書（滿七十人蒙古十六人漢軍八人漢三十人均從七品）貼寫中書（滿四十人蒙古六人均七品）其下ニ中書科中書舍人筆帖式等の職數十人あり。○吏部○戸部○禮部○兵部○刑部○工部（以上を六部と稱す）各部の尚書滿漢各一人（從一品）左右侍郎滿漢各一人（正二品）其下司ハ滿蒙古漢人の均く務る官ハ郎中（正五品）員外郎（從五品）主事（正六品）司務（從九品）筆帖式（七品より九品に至る）六部各屬する司の多少あるより。以上の官も又人數の多寡ある繁劇とをもつて其人員を此ニ略ス以下皆準之。

○都察院左都御史満漢各一人（從一品）左副都御史満漢各二人（正三品）十五道監察御史（從五品。満漢或は一人或は二人なり。十又ろと諸署の監察と云。十五道は本文都察院署乃案多に及ぶ）其余経歴筆帖式の職数十人あり。○通政使司又通政使（正三品）副使（正四品）参議（正五品）揃く満漢各一人属する所経歴知事（満漢各正七品）掌登聞鼓筆帖式等の職数十人あり。○大理寺又卿（正三品）少卿（正四品）揃く満漢各一人属する司左右寺丞（正六品）左右評事（七品）揃く（正）司務（從九品）筆帖式等の職あり。（以上六部と都察院通政使大理寺と九卿と称す。又刑部都察院大理寺と三法司と名け國家の獄を決し政刑を均平凡）○楽部（禮部の満尚書内務府總管及び各部院乃尚書侍郎の中楽をよく知者兼官凡）属する所和声署乃署正署丞（満漢各一人つゝ）供用官人（三十）○理藩院尚書一人（從一品）左右侍郎各一人（正二品）揃しく（満蒙古）属する所の下務は郎中員外郎堂主事司務（各満洲蒙古。是を掌る）筆帖式（満洲蒙古漢人数十人○銀庫満洲蒙古満洲房唐古忒学内館外館満洲蒙古等の各官人数十人あり。又張家口喜峯口獨石口殺虎口古北口等の外関には皆な院より撰び派官を差て守らしむ）○内務府總管一人（正三品。定員無し。満洲の大臣より派し或は王公の中より簡てこれを摂しむ）其下司は郎中員外郎主事司庫（從満各部院又同じ）司俎官（正六品）副内官（品）司匠（正八品）賛禮郎（品）筆帖式等の職あり。人員数百人是を総ぶ。属する所武備院上駟院奉宸苑と三院と云。（各卿三品。其下司は大概各部院と同じく是を察し）

○翰林院掌院學士兼禮部侍郎。滿漢各一人。（從二品）侍讀學士。侍講學士。滿漢各三人。（倶く從四品。又侍讀官。侍講官あり。倶く從五品。）修撰。（從六品）編修。（正七品）檢討。（從七品）庶吉士（七品の俸を食む）其外典簿。孔目。待詔等の職あり。（從八品より從九品に至る。）○起居注館の記注官滿八人。漢十二人。（翰林院詹事府の坊局官の中より簡て任ス。）主事。筆帖式あり。○詹事府の詹事。（正三品）少詹事。（正四品）倶く滿漢各一人。下司には主簿筆帖式あり。（屬する所に左右春坊。左右庶子。各倶く正五品。左右中允。正六品。左右贊善。從六品。又司經局洗馬。從五品。其屬する所に正字。從九品。）○太常寺の卿。（正三品）少卿。（正四品）倶く滿漢各一人。屬する下司寺丞。（正六品）典簿。博士。司庫。（倶く正七品）所牧。（從七品）協律郎。（正八品）讀祝官。贊禮郎。（倶く正九品）司樂。（從九品）筆帖式（以上滿漢とも役に數多なる。人員百人斗。略して記せず。）○光祿寺の卿。（從三品）少卿。（正四品）倶く滿漢各一人。屬する下司は署丞。署正。（從六品）署丞。典簿。（倶く從七品）又銀庫。司庫。の官あり。（倶に正七品。滿漢人員略之。）○太僕寺の卿。（從三品）少卿。（正四品）倶く滿漢各一人。員外郎。主事。主簿。筆帖式あり。（從以下皆同じ。滿漢其外とも人員畧。）○鴻臚寺の卿。（正四品）少卿。（從五品）倶く滿漢各一人。屬する所に主簿。（從八品）鳴贊。序班。（倶く從九品）筆帖式。（人員畧之）○國子監の祭酒。滿漢各一人。（從四品）司

業滿漢蒙古各一人（正六品）属する所の下官は監丞（正七品）博士（從七品）助教（從七品）學正學錄均く（正八品）典簿（從八品）典籍（從九品）筆帖式等各數人あり（人員畧之）又鄂羅斯館蒙古法館の各助教一人（漢人）○欽天監又監正滿一人西洋一人（正五品）監副滿漢各一人左右監副西洋各一人（均く正六品）春夏中秋冬の五官正滿洲蒙古各二人漢軍一人漢五人（均從六品）主簿（正八品）靈臺郎（從七品）五官挈壺正（從八品）五官監候（正九品）五官司晨（從九品）博士（從九品）天文生（從九品の俸を食）筆帖式○太醫院の院使一人（正五品）左右院判各一人（正六品）御醫（正八品）吏目（半は八品半は九品）○順天府の尹一人（正三品）丞一人（正四品）属する下司は治中（正五品）通判（正六品）經歷（從七品）照磨（從九品）崇文门分司副使（未入流）司獄（從九品以上均く一人）又大興縣の知縣宛平縣の知縣各一人（正六品）縣丞各二人（正七品）其下司は主簿典史巡撿儒學教授（正七品）訓導（滿は正七品漢は從七品）均く一人つゝを設く○武職衙门司官○鑾儀衛主事滿一人經歷漢一人○三旗領侍衛府主事滿一人○步軍統領衙门員外郎滿二

人。皇帝。司務。満洲各二人○親王府管領（正六品）典膳（従六品）司庫（従七品）司匠（従八品）馬群牧長（従八品）牛群牧長。羊群牧長（従八品）協しく○郡王府管領（正六品）以下の官親王府に同じ。○太師。太傅。太保。少師。少傅。少保。太子太師。太子太傅。太子太保。太子少師。太子少傅。太子少保。以上の官清朝専ら設る事なし。唯其名ありて。実はなきなり。或ひ此官をもて侍衛大臣に加銜し。或は追贈とする也。此等の官を以てと。

右宗人府以下。親王府。郡王府にいたるまでの各府。部。院。及び官人の掌る職分。事務は詳に本条に見ゆ。其署の所に就てこれを按ずべし。○壇廟陵寝及び堂子には皆尉あり。祀祭署の奉祀官あり。又孔廟に執事の官あり。盛京には戸。礼。兵。刑。工の五部。及び奉天府尹。盛京将軍。衙門等を設け。其外吉林寧古塔白都納。黒龍江。斉斉哈爾。墨爾根城。呼蘭などの塞外の地にも各清の天子より簡用して政刑を司る官人多しといへども。繁ければ此に略し。他日大清官職一編を著し。文武百寮の品級官職の次第を詳にすべし。

外官

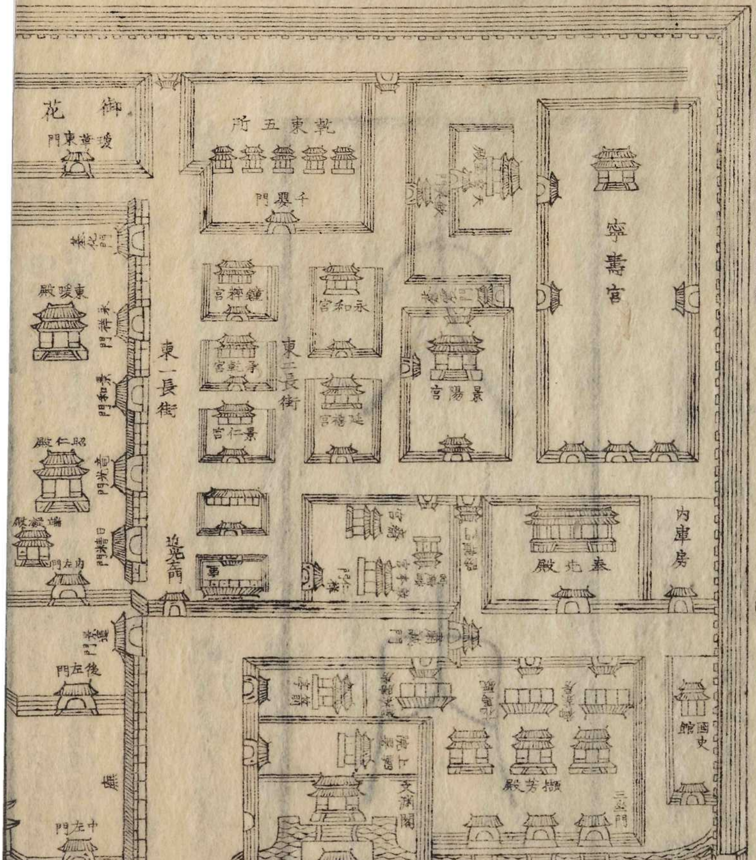
總督。清朝の制各省を治るに總督を設けて文武を統轄し軍民を治む。國政の綱紀を掌しむ。位は正二品任に居る間尚書。従一品を加ふ。直隷に一人。（治保定府）江南。江西に一人。

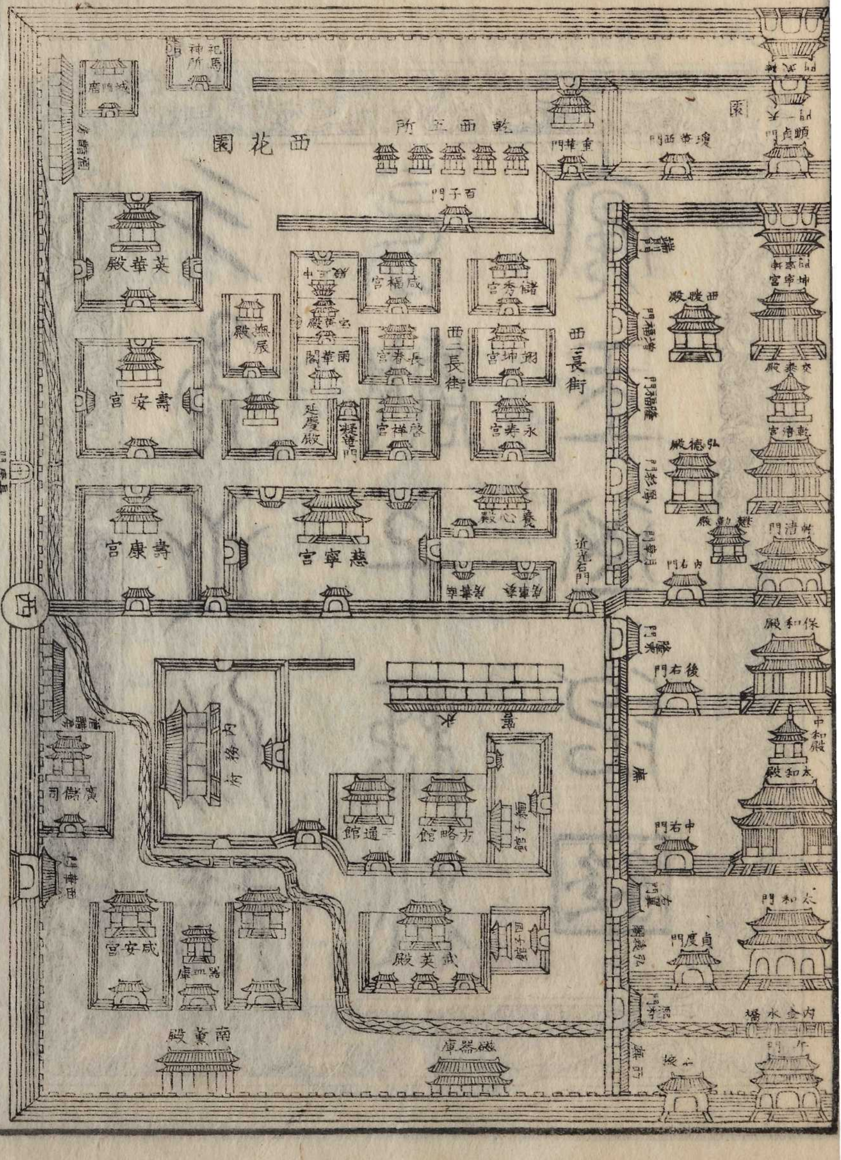
（治江南江寧府）福建浙江に一人（治福建福州府）湖北湖南に一人（治湖北武昌府）陝西甘粛に一人（治陝西西安府）廣東廣西に一人（治廣東肇慶府）四川に一人（治四川成都府）雲南貴州に一人（治雲南雲南府）○漕運總督○河道總督（均しく正二品）（従の間尚書銜正従加ふる者省の財穀漕運のことを掌る。）○巡撫（掌る者ハ教養政刑を總理ス従二品従に居る間侍郎正二品銜加ふ。）十八省總に各一人。（但し直隷四川は總督これを巡撫を兼務ス。）○學政（各省州縣の學校乃政を正し。賢能を挙ぐ。品級定式なし。皆原銜乃侭すれ。）十八省各一人。（但し盛京奉天の學政ハ奉天府乃丞兼ねてこれを兼理し。福建臺灣府の學政ハ臺灣道官をとりて兼理ス。）○鹽政（鹽の漕運権場のことを司る。唐土地廣く西北の地皆海に遠し。故に官を設けて普く天下に達ス。）長蘆。河東。兩淮に各一人。（但し福建兩廣ハ總督兼ねて兼理せしめ。兩浙ハ巡撫これを兼理し。甘肅四川雲南貴州ハ均しく巡撫これを管理ス。品級ハ定式なし。）○織造（御用綾羅紬緞綵緞御造のことを掌る。内務府司官の内より簡用ス。）江寧府。蘇州府。杭州府各一人○巡察（都察院より[illegible]）福建臺灣各一人○承宣布政使司（従二品。凡財賦乃ことを掌る。）十八省各一人。（經歴。理問。都事。照磨。庫大使。倉大使等乃官あり。皆布政使司の下務なり。）○提刑按察使司（正三品。掌る者ハ刑名と糧儲と驛傳と鹽法と兵備と河庫と茶馬と屯田とを司る。各道を巡りて官吏の政道乃數とせり。兼てハ農桑を課し。賢能を真し。風俗を勵し。軍實を簡し。封守を固くス。）十八省各一人。（經歴。照磨。司獄の官あり。皆按察使の下司なり。）○知府（同知。通判と従え州縣を帥ふ。位ハ従四品。）十八省倶に府毎に一人○同知（府毎に或ハ一二人或ハ三四人。糧を督し。盗賊を捕へ及び海防江防。清軍。撫苗。水利等の事務を分理ス。位ハ正五品。）通判（掌る者ハ同知に同し。先の府毎に一二人或ハ三四人を置く。位ハ）

正六品。雜職ハ經歷・都事・理問・照磨・檢校・知事・司獄・吏目・典史・驛丞・巡檢・牐官・倉大使・庫大使等るありて或は一ツを司り或は兼攝を兼ぬ。府每に官員人數の增減あり。繁きを以てここに略す。○知州（州同州判と總て其土田戸口稅糧詞訟を治む。總は從五品。）直隸州及び府に屬する州。州每に各一人。○州同・州判。（州同は從六品。州判は從七品。每州或は設け或は設けず。）土地を分ちて糧あり。其雜職には吏目・稅課・倉大使・庫大使等の職あり。人員はこれを略す。○知縣（縣丞主簿と總て其田戸稅糧詞訟を治むる事知州に同じ。正七品。）凡二京十八省に在るの縣一千二百一十五。悉く知縣一人づつを置く。○縣丞・主簿。（縣丞は正八品。主簿は正九品。每縣或は設け或は設けず。總べて知縣の職を補く。雜職は典史・稅課司大使・倉大使・河泊所官等あり。）○教授（正七品。教授は府に在る所の學校を司り仁義禮智を修めて以て士を造り以て民の心を導して治化を成すを司る。）十八省府每に一人。○訓導（從八品。教授の貳として從の聖教を訓へ導く。）○學正（正八品。州にある所の學校を司る。治る所教授に同じ。）二京と十八省の州每に各一人。（貳は是を訓導と云。）○教諭（正八品。縣にある所の學校を司る。治る所教授に同じ。）盛京と十八省の縣每に各一人。（貳はこれを訓導と云。）○糧儲道○都轉運鹽使司○運同○運副○運判○鹽掣○鹽課提擧司○鹽課司大使○鹽引批驗所大使○巡檢○驛丞○牐官等の官ありといへども其の品級と人員は繁きを以て是を略す。唯其職の司る所は官名を察して知らるべきなり。（八旗の都統・前鋒統領・護軍統領・步軍統領・御鳥鎗・火器營・圓明園護軍營・健銳・八旗・虎槍營等の官級及び人員政令は實に云ふ如く大清官祿に記す。）

大内

大内總圖


東
御花
瓊華東門
乾東五所
千嬰門
寧壽宮
景陽宮
永和宮
延禧宮
鍾粋宮
承乾宮
景仁宮
東一長街
東二長街
基化門
東暖殿
永祥門
景和門
昭仁殿
龍光門
端凝殿
日精門
内左門
近光左門
齋宮
毓慶宮
奉先殿
内庫房
景運門
後左門
廡
中左門
協和門
昭徳門
箭亭
上駟院
文淵閣
擷芳殿
三座門
國史館
東華門
文華殿
傳心殿
大庖井
鑾駕庫
戸部内庫
内閣
左掖門


神武門
天一門
順貞門
園
瓊苑西門
重華門
乾西五所
西花園
祀馬神所
城隍廟
酒醋房
百子門
英華殿
咸福宮
儲秀宮
中正殿
寶華殿
撫辰殿
雨華閣
長春宮
翊坤宮
西二長街
西一長街
延慶殿
凝華門
啓祥宮
永壽宮
壽安宮
長庚門
壽康宮
慈寧宮
養心殿
近光右門
西
端則門
西暖殿
增福門
隆福門
弘德殿
鳳彩門
懋勤殿
月華門
内右門
坤寧門
坤寧宮
交泰殿
乾清宮
乾清門
保和殿
隆宗門
後右門
中和殿
太和殿
庫
中右門
右翼門
貞度門
太和門
弘義閣
熙和門
内金水橋
午門
右掖
內務府
廣儲司
西華門
三通館
方略館
咸安宮
器皿庫
武英殿
南薰殿
磁器庫

三代之所謂
象魏子孫永
寶王爾民

綾

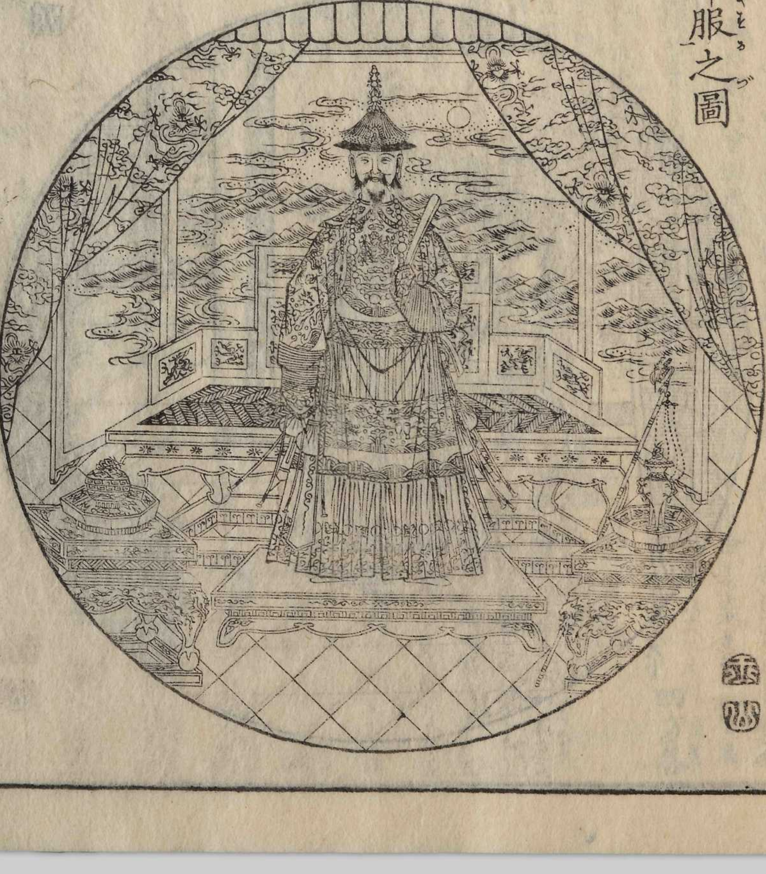
大清皇帝御夏朝冠服之圖

○朝冠織玉草或藤絲竹絲為之縁石青片金二層裏用紅片金或紅紗上綴朱緯前綴金佛飾東珠十五後綴舍林飾東珠七頂三層貫東珠各一皆承以金龍各四飾東珠如其數上銜大珍珠一

○朝服色用明黃披領及袖俱石青片金縁緞紗繍文兩肩前後正龍各一襞積行龍六列十二章俱在衣間以五色雲

○朝珠用東珠一百有八佛頭記念背雲大小墜珍寶雜飾各惟其宜大典禮御之縧明黃色

○朝帶色用明黃龍文金圓版四飾紅寶石或藍寶石及綠松石每具銜東珠五圍珍珠二十左右佩帉淺藍及白各一下廣而銳中約鏤金圓結飾寶如版圍珠各三十佩囊文繍燧觿刀削結佩惟宜縧用明黃色大典禮御之

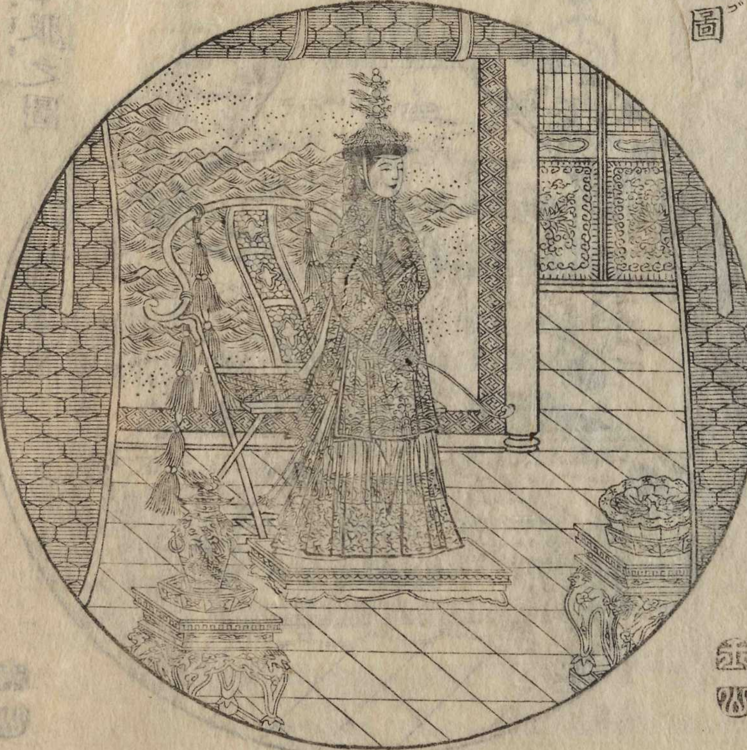


皇后御冬朝冠服之圖

○朝冠薰貂為之上綴朱緯頂三層貫東珠各一皆承以金鳳飾東珠各三珍珠各十七上銜大東珠一朱緯上週綴金鳳七飾東珠各九猫睛石各一珍珠各二十一後金翟一飾猫睛石一小珍珠十六翟尾垂珠五行二就共珍珠三百有二毎行大珍珠一中間金銜青金石結一飾東珠珍珠各六末綴珊瑚冠後護領垂明黄縧二末綴宝石青緞為帶

○朝袍色用明黄披領及袖俱石青片金加貂縁肩上下襲朝褂處亦加縁繡文金龍九間以五色雲中無襞積下幅八宝平水披領行龍一袖端正龍各一袖相接處行龍各二領後垂明黄縧其飾珠宝

○朝褂片金加海龍縁上用紅織金壽字緞下石青行龍粧緞皆正幅有襞積



大内

清朝定鼎燕京。宅中建極。宮殿之制。環以皇城。重以紫禁城。左太廟右社稷。外朝内宮。別殿。翼室。秘省。掖垣。東西分列。不倹。不奢。萬年攸宅矣。

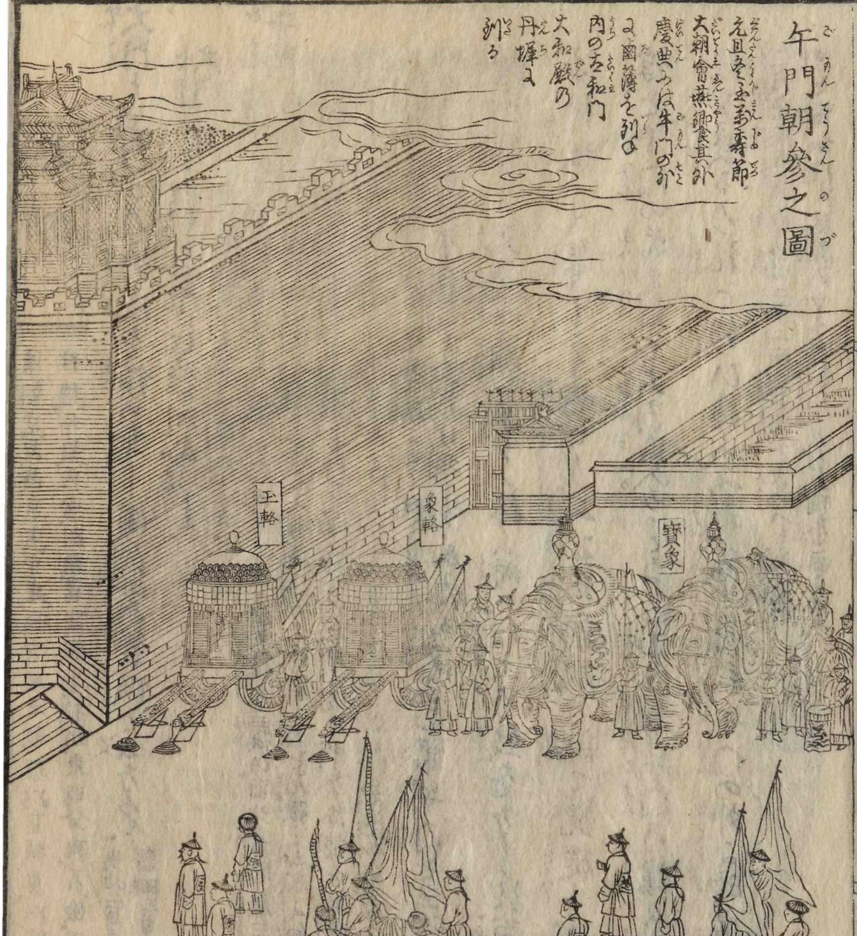
大内とハ天子乃御座を鎮めまし満ん紫禁城を云なり。（南北二百三十六丈二尺　東西三百二丈九尺五寸）四方各大门あり。（正南を午门と云。北を神武门と云。東を東華门と云。西を西華门と云。）

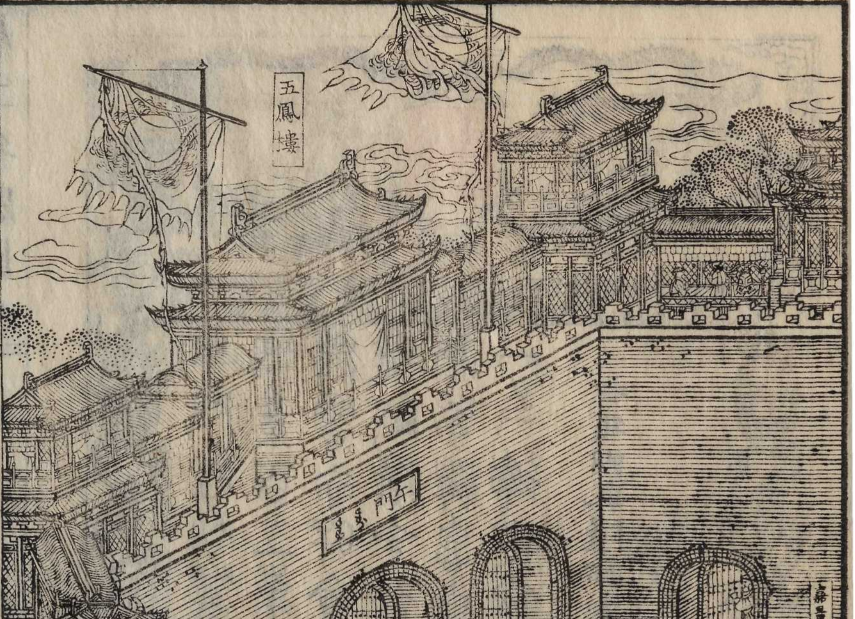
午門　大内の正中南乃门也。廣さ九間三の门闕あり。上ニ重樓を覆ひ。南北各形廡三十六あり。门の前左ニハ嘉量を置。右ニハ日圭を設ク。左右ニ各掖门あり。西ニ向ふ者を左掖と云。東ニ向ふ者を右掖と云。上ニ譙樓の明廊を覆ひ。翼ふは両觀となりて。傑閣高く四方ニ聳へ。中なる樓を相擁く故ニ俗稱して五鳳樓と云。凡天子の駕出入るハ中なる闕よりし。文武百官ハ左の闕を通行し。王公宗室ハ右の闕より往来す。左右の掖门常ニ閉て開くることなし。唯天子朝ニ出て政を聽せ給ふ時ハ正门の出入を避て掖门より入り北して殿ニ入る。天子の駕午门を出入の時ハ門上ニ鐘を鳴し。天子太廟を祭り給ふ時ハ门上乃鼓をならし百官朝參乃時ハ鐘鼓とも等しく鳴せり。又將軍朝獻を討て凱旋し。俘をとる時ハ其俘を午门の前ニ引て大内ニ入ることなし。天子即午门乃樓ニ出御し給ひ俘を受るの礼を行ひ給ふ。又每歳十月朔。午门の外ニ時憲書を頒ち給ふ。

（门内東西両廡あり。各二十二間。階基を山字の如し。東廡の中を協和门とし西廡の中を熙和门とし。各又向东と西ニ向ふ。）

午門朝參之圖

元旦冬至萬壽節
大朝會燕饗其外
慶典には午門の外
に鹵簿を列ね
内の太和門
太和殿の
丹墀に
列る




五鳳樓
午門
嘉量
日圭
金輅
革輅
木輅

午門陞旭麗曈曨收年歲儀集百工東奻西鸞萬起赤雲之時會一篇中書殊繼寅咸今答甘畢澤因協而尋涉皋貞頌彭騎綸天一三運繼寧

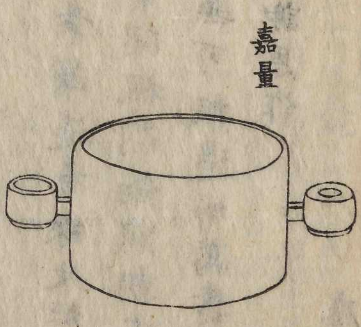
右頒朔乾隆帝御製

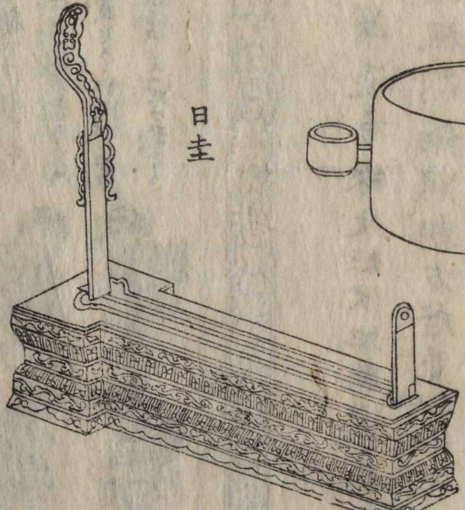
巽齋木孔恭篆

刋　圖

日圭嘉量之圖

日圭ハ日の長短を示し西南北の方位を正し器なり。嘉量ハ升斛に等る器なり。此二の器を紫宸殿の正門に置るゝハ天下国家を治め太平の御代を書し民に時を授くることを表て衡を用ひれとなり。或ハ正門の左右に渾天の時を暁し地の圖を正しくし海門と號するの正殿と民にしらしむるの周禮考工記に匠人勢を置て以て縣して以て景を眡るとあり。勢ハ臬之又臬ハ氏之圭を量るの文あり。詩の定之方中に之を揆るに日を以てするの類なれば其の説遠し。今午門の外に建る日圭嘉量ハ唯朝廷に示す所の器にして此所に就て更に日の長短を量り斛量を準するにあらざるなり。嘉量の説も又幾しからんとも。日圭に準じて是を略す



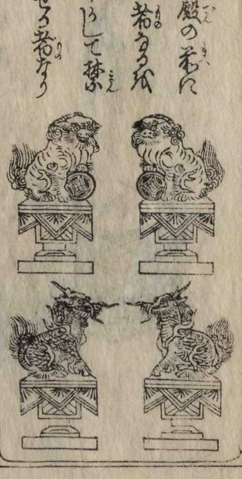


嵯峨閶闔啓雙鐶　帝闕遙看綵仗班伏地敢違指
咫尺瞻天只在殿中间楓门劍佩朝方啓草野衣冠
拜未嫺但愧聖恩無可報遙呼萬壽指南山
右毛奇齡午门謝恩作

應道書

銅獅之圖

銅獅金麟と門殿の前に列られ其祥瑞の者なるを以て威武をかゞやかして禁門の鎮護となせる者なり



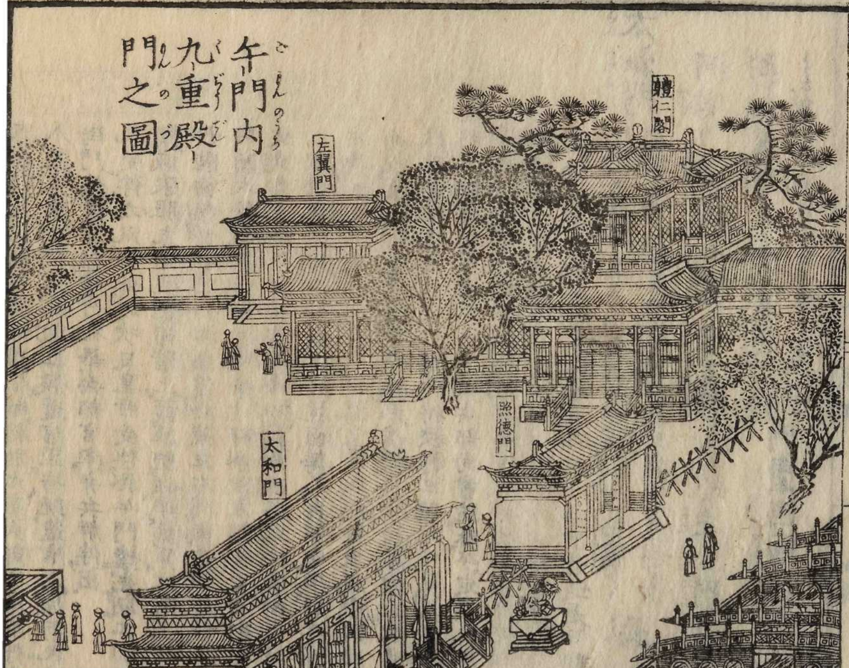
凡獻俘之礼。擇日皇帝遣官獻俘於太廟。兵部官率解俘弁兵。以白組繫俘頸。由長安右門天安門右門入。至太廟街門外。北面立候。遣官至。皆跪。遣官入廟行礼。復獻俘於社稷壇。兵部官仍以俘跪候於社稷街門外。遣官詣壇行礼畢。兵部官率弁兵解俘出。

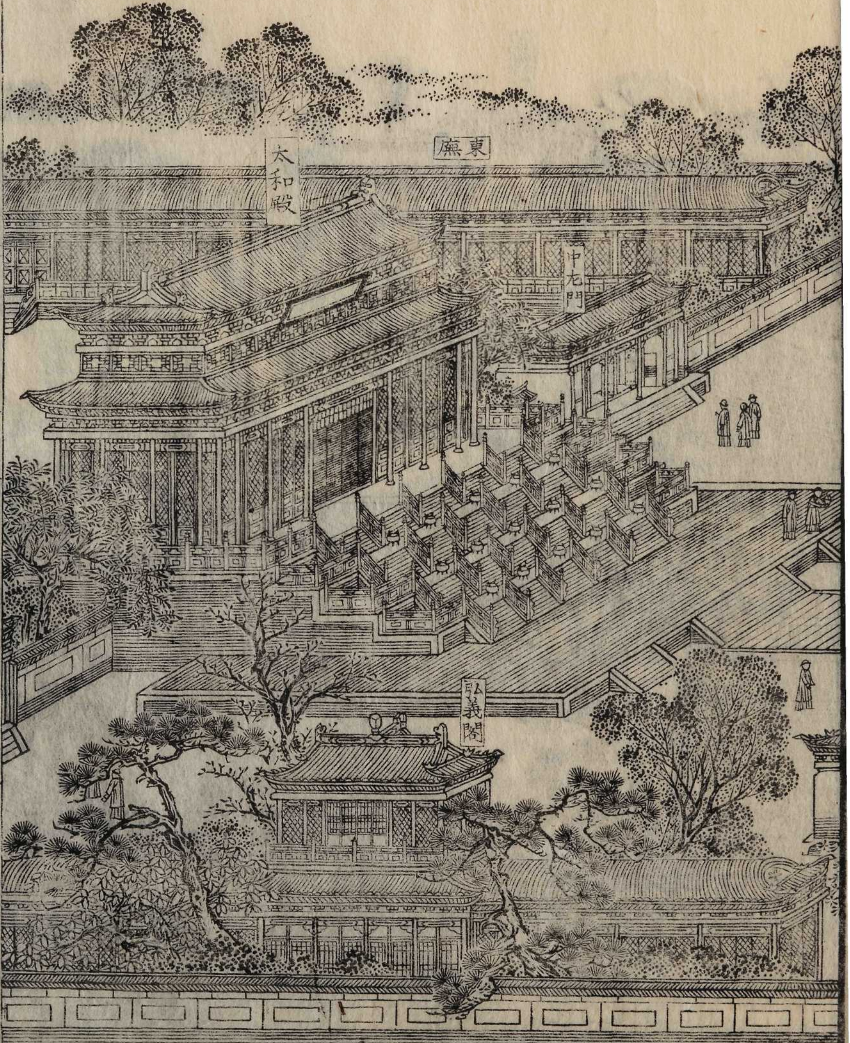
凡受俘之礼。獻俘之次日。皇帝受俘於午門樓。先期工部設御座於午門樓正中。至日質明。内大臣率侍衛咸朶服立兩觀翼樓階上。護軍統領率護軍立階下。均佩刀環衛。武備院張黄蓋於樓檐外。鑾儀衛設丹陛鹵簿於闕下。丹墀鹵簿於闕左右門。南金鼓鐃歌於鹵簿前。樂部和声署設丹陛大樂於鹵簿之末。内閣大學士。學士。翰林院學士。都察院左都御史。左副都御史。於丹陛鹵簿之左右。王公於丹陛鹵簿外。文武各官於丹墀鹵簿外。均按翼東西序立。糾儀御史。鴻臚寺官。各分班立。均嚮太和殿。大朝礼同。兵部二部尚書侍郎。立於右翼丹墀鹵簿外。兵部官率解俘將校押俘立。候於右翼金鼓外。刑部官立於兵部之次。礼部堂官詣乾清門。請駕。皇帝御龍袍衮服。乗輿出宮。午門鳴鐘。前引後扈如常儀。駕至太和門。鳴金鼓奏鐃歌。皇帝陞午門樓。至檐前。降輿陞座。樂止。宣旨大臣二人立於階下。鴻臚官賛排班。引解俘將校。進至御道西。北面立。樂作。將校行三跪九叩礼。畢退立原位。受俘兵部官率將校引俘至金鼓下。跪。兵刑二部堂官均趨至午門前。兵部尚書跪奏平定某地所獲俘囚某某等。謹獻闕下。宣旨大臣宣制曰。所獻俘交刑部。刑部堂官跪領旨。兵部官引俘出金鼓外。交刑部官。刑部官械俘出施行。若得旨赦俘罪。宣制釋縛。俘叩首畢。將校引由天安門右門出。丹陛大樂作。王公百官各就拜位。行三跪九叩礼畢。樂止礼成。鳴金鼓奏鐃歌。皇帝乗輿還宮。王以下各官皆退。是日賜解俘弁兵銀幣各有差。

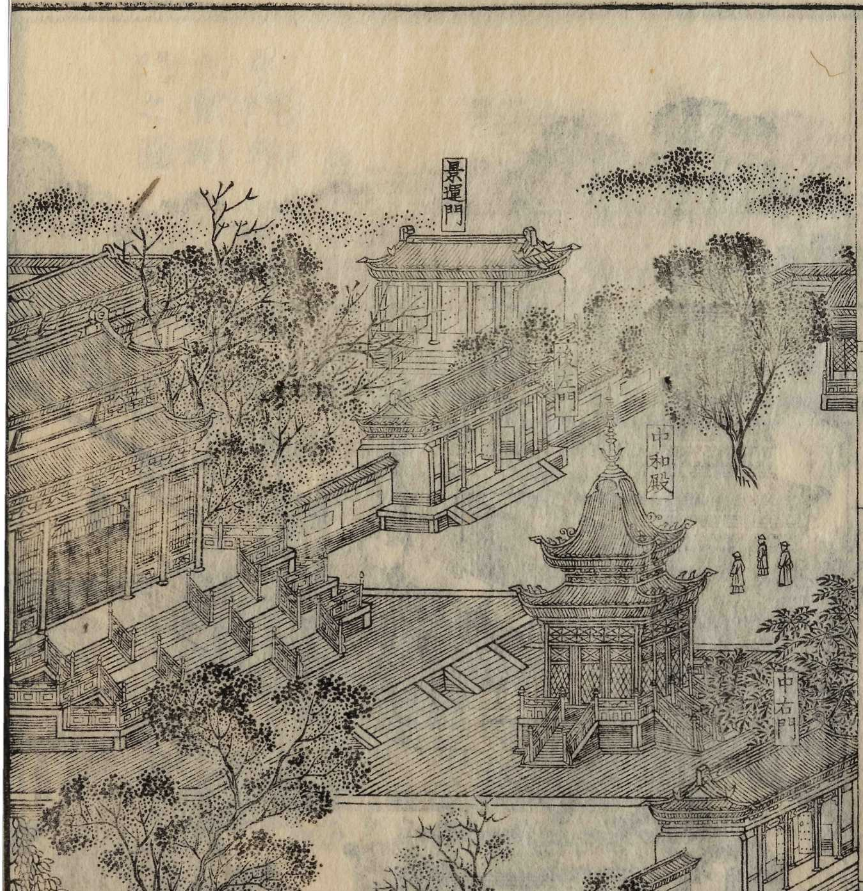
太和門

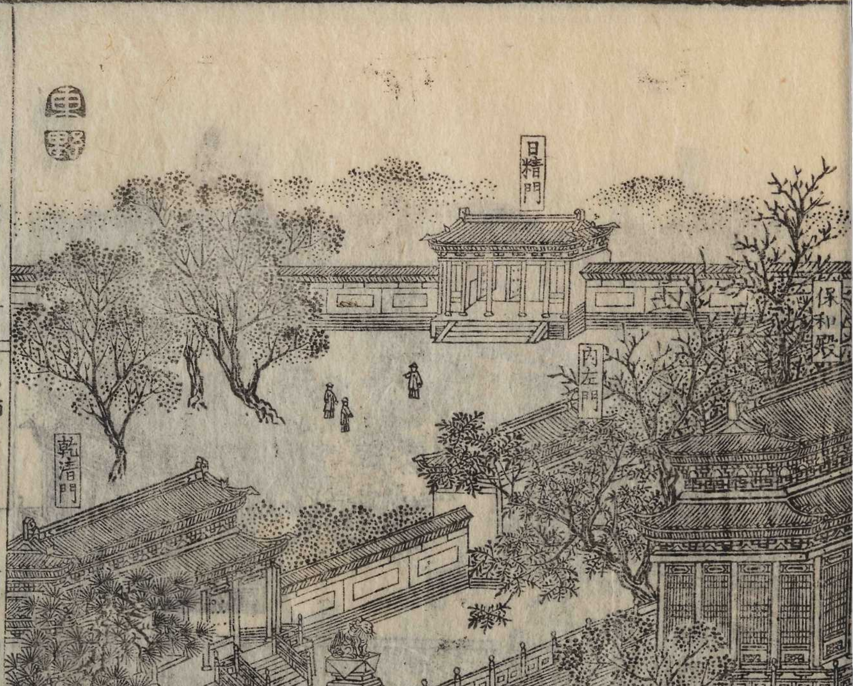
午門の後両廡の外にあり。九間三門基高く。石闌ありて前後の陛各三出。左右の陛各一出なり。前に銅獅二を列ぬ。門の南に金水河環り流る。石梁五を跨られ。是を内の金水橋といふ。左右に各一門あり。左を照徳門といふ。右を貞度門といふ。廣さ三間ひとしく南に向ふ。門内東西両廡あり（各三十二間。東廡の中を體仁閣といふ。西廡の中を弘義閣といふ。東と西とに向ふ。其両廡を銀皮

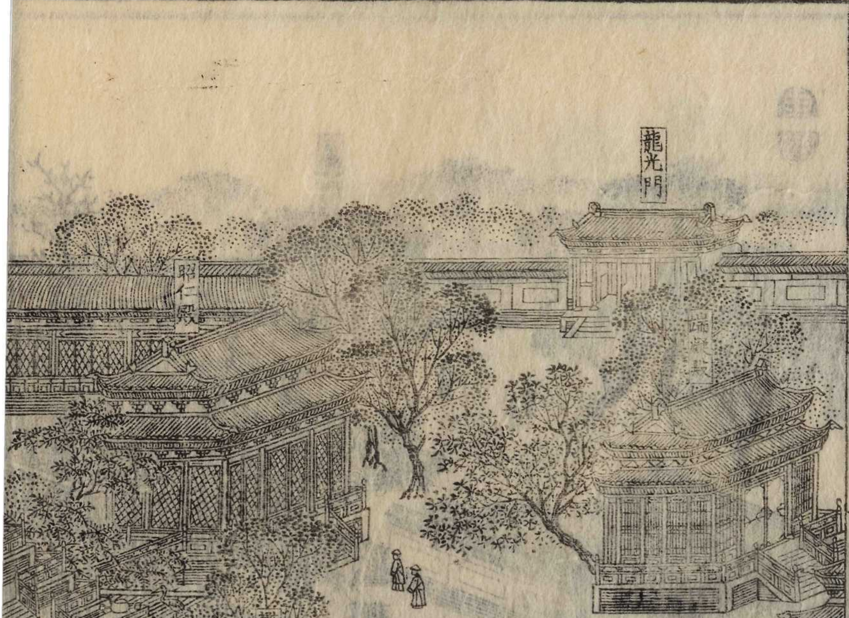
午門内九重殿門之圖

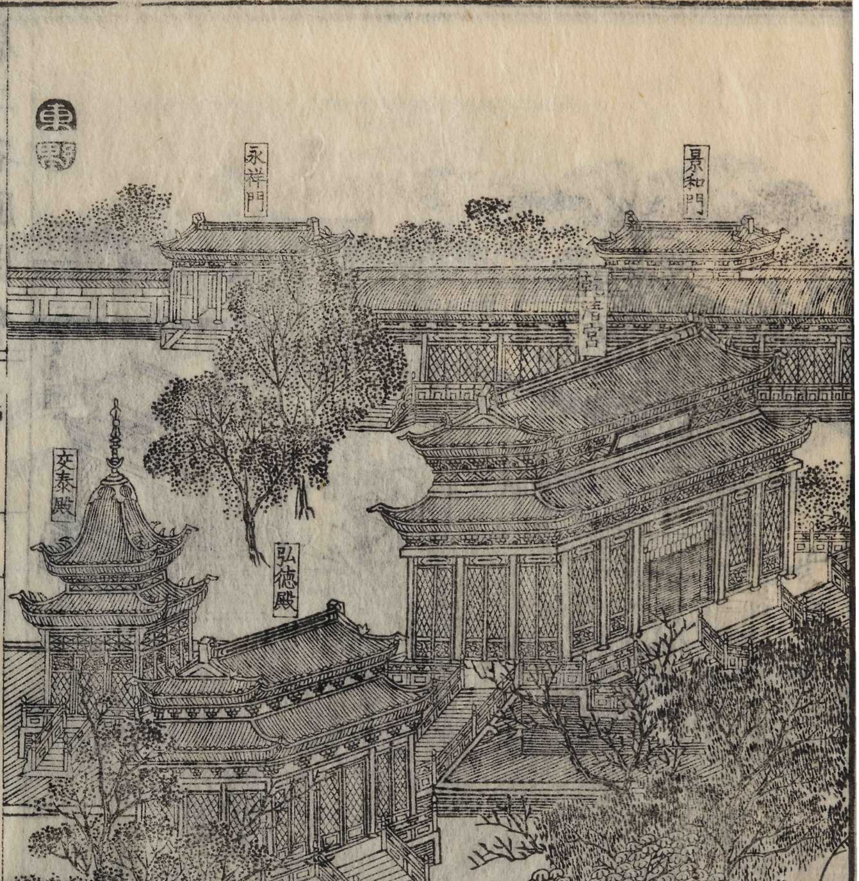

體仁閣
左翼門
照德門
太和門
貞度門
内金水橋
熙和門
玉山

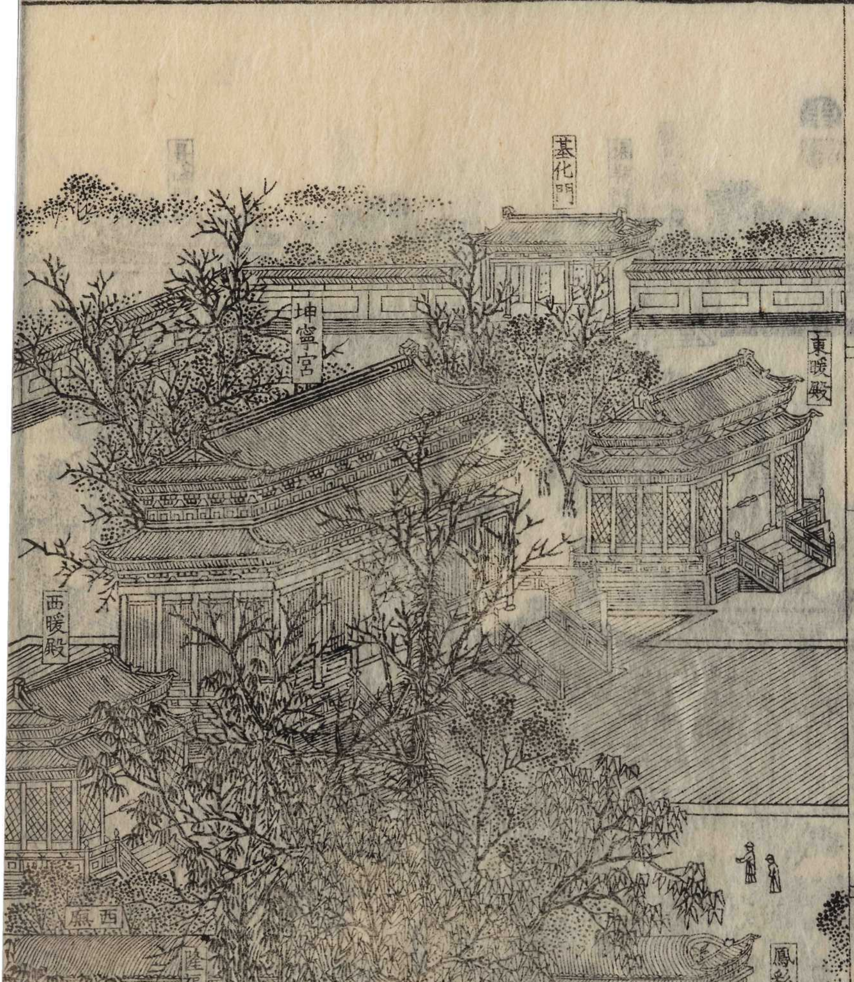

東廡
太和殿
中左門
弘義閣

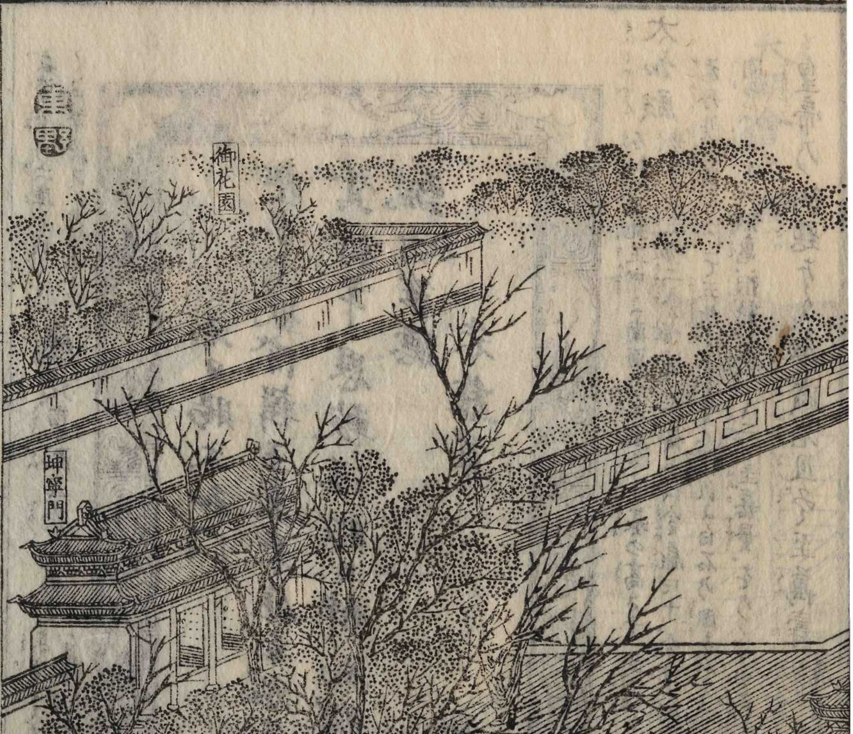

景運門
後左門
中和殿
中右門
西廡
右翼門


東壁
日精門
保和殿
内左門
乾清門
後右門


龍光門
昭仁殿
端凝殿
懋勤殿
内右門
隆宗門


東
門
永祥門
景和門
乾清宮
交泰殿
弘德殿
月華門


基化門
坤寧宮
東暖殿
西暖殿
西廡
隆福門
鳳彩門


御花園
坤寧門
增福門
端則門

衣瓷茶乃六庫（とれくしくれ内務府乃下に屬すれ）廡の北東西に各門あり。東廡にあるを左翼門といふ。西廡にあるを右翼門といふ。各五間ひがしと西にむかふ。

元日賜太和門

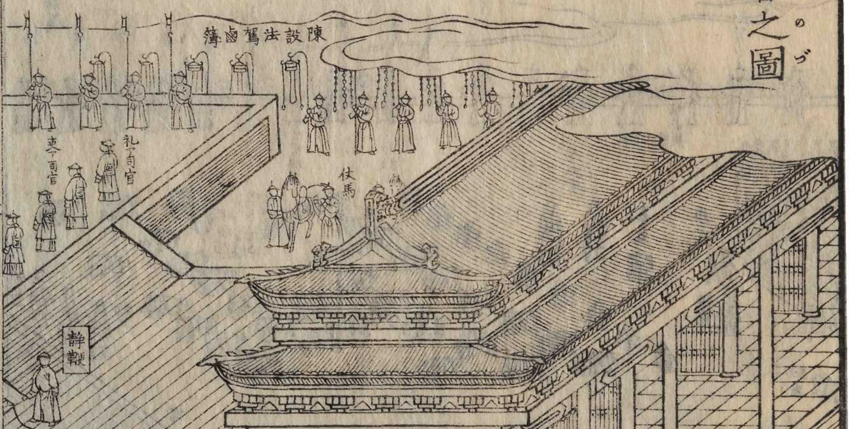
埀衣逢盛際輯玉盡来庭白醞三光酒青歸一葉蓂新年恩較渥昨日醉初醒九奏鈞天曲風飄次第聽

朱彝尊

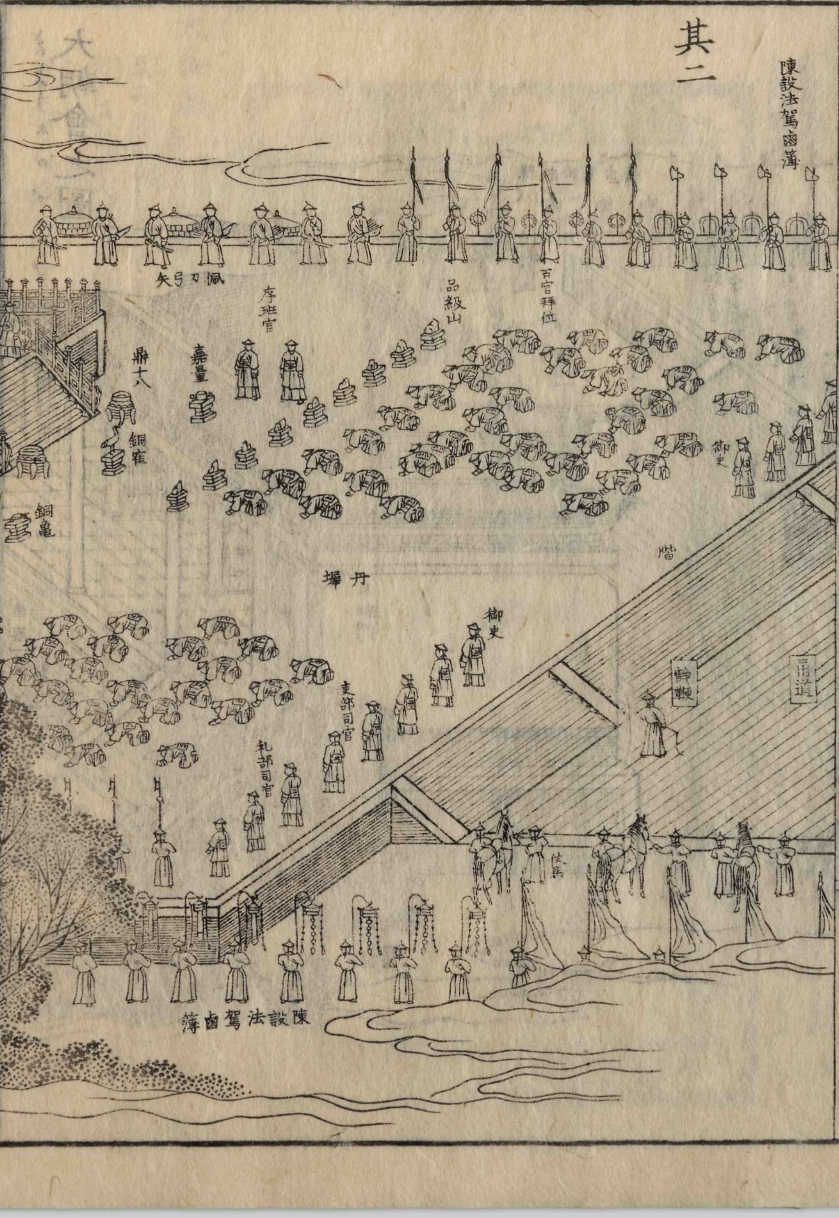
拙古

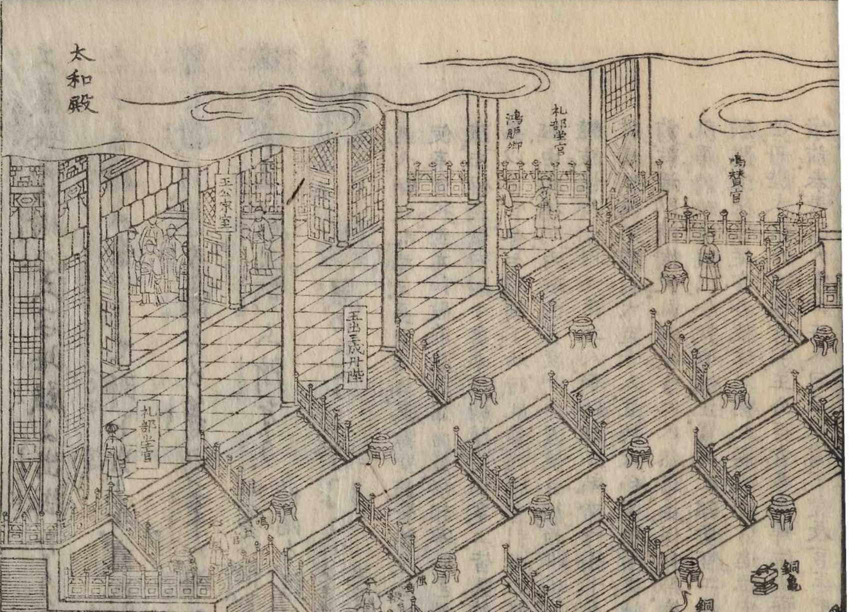
太和殿 太和門の北正中に南面の大殿なり。基の高さ十一丈、廣さ十一間、縦五間、檐重りて脊に臣台よ垂り。正吻二、旁吻に四、前後には金扉に十、金瑣窻十六あり。殿の正中に御座を設け、殿前丹陛三層をなして五所にきざはし、環に白石の闌をもてし、陛の間には鼎十八、銅亀、銅鶴をおく。二日圭嘉量をならべひがしと列す。建極綏猷の額は乾隆皇帝乃御題なり。毎歳元旦冬至萬壽（天子の誕辰を萬壽節といふ）乃大節及び林ホ伴に

大朝會之圖（だいちやうゑのづ）


陳設法駕鹵簿
吏部司官
礼部司官
仗馬
靜鞭
太和門
華蓋
仗馬

其二


陳設法駕鹵簿
佩刀弓矢
序班官
品級山
百官拜位
鼎十八
嘉量
銅雀
銅龜
御史
丹墀
階
御史
吏部司官
礼部司官
静鞭
三出道
仗馬
陳設法駕鹵簿

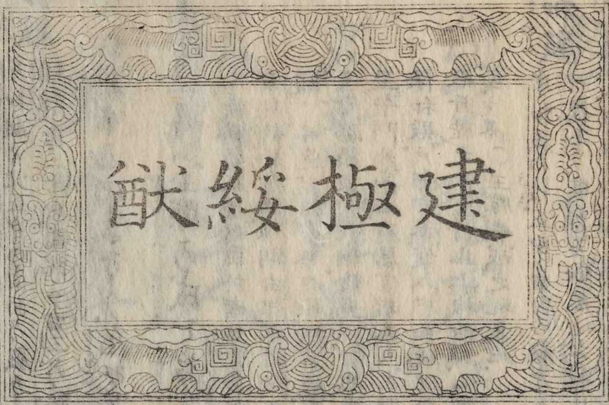

太和殿
王公宗室
鴻臚卿
礼部堂官
鳴贊官
王公三品丹陛
礼部堂官
鳴贊官
侯鳴鞭
銅龜
銅雀
日圭
序班官
佩刀弓矢

大慶典ある時ハ天子此殿に出御なりて賀を受給ふ其外大朝會燕饗ましまし将に命して師を出し或ハ軒に臨で士を策し或ハ百僚に位階を授け恩を謝せらるゝ等の事ハ此殿に御して執行ひ給ふ殿前丹墀ハ文武官禮を納ふ所なり。（此所ハ銅をもて山の形を作り正従一品より九品までの位階を鐫東西各十八と二行につらね百官禮を納ふ乃目とて此を品級山といふ天子御道のかたはらに列ぶ）殿の左右に各門あり。（左を中左門といふ右を中右門と云殿の南に向ふ）殿の後東西両廡あり（各三十間）

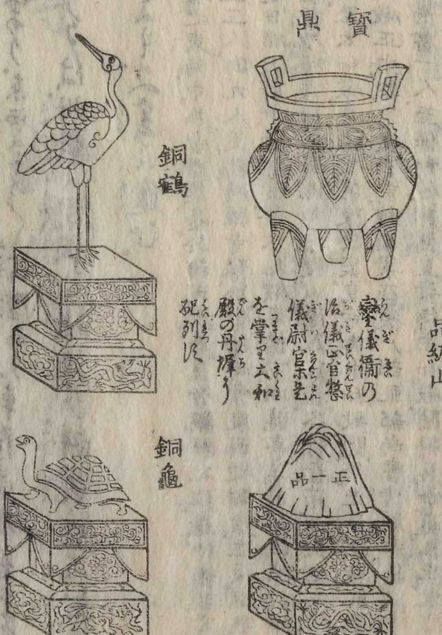
凡大朝之礼元日長至次日萬壽聖節皆豫月由部疏請御殿受賀得旨先期戒百執事至日五鼓鑾儀使率官校至太和殿前陳法駕鹵簿樂部率和声署陳樂懸儀制司郎中奉在京王公百官賀表入殿內陳左楹表案內閣中書奉筆硯陳右楹案上皆退質明王公曁文武一二品官從皇帝朝於皇太后宮三品以下官會午門闕下均行礼畢鴻臚官引王公曁一二品官入右翼門引三品以下官入左右掖門東班由昭德門西班由貞度門外國使臣從西班咸入就位立礼部堂官二人詣乾清門奏請御殿午門鳴鐘鼓領侍衛內大臣二人率豹尾班執槍侍衛十人佩刀侍衛十人立於乾清門外礼部堂官二人立於乾清門階下前引大臣十人立於太和殿後階下祇竢導引皇帝乘輿出乾清門後扈內大臣二人及御前乾清門侍衛從礼部堂官二人恭導由保和殿御中和殿座侍班導從官於殿前行三跪九叩礼不賛礼畢侍班官趨出各就班位立駕興礼部堂官二人曁十大臣前導後扈如初中和韶樂作皇帝御太和殿陞宝座導從官各就位立樂止鑾儀衛官進至中陛之右三傳鳴鞭階下三鳴鞭退復位鳴賛官賛排班丹陛大樂作鴻臚官引王公百官各就拜位班齊賛進衆進賛跪衆跪賛宣表宣表官入殿左門詣表案前奉表出大学士二人同至殿檐下宣表官正中北面跪大学士二人左右跪展表樂暫止宣表官宣

訖奉表還於案復位立。樂作鳴贊官贊叩興。王公百官行三跪九叩礼。畢樂止。引退復位立。次引外國使臣就拜位。樂作。贊跪叩興。各行三跪九叩礼。畢樂止。引退復位立。賜群臣坐。諸王公由殿左右門入。大学士由殿左門入就位。内大臣等各就本位立。均跪行一叩礼。坐賜王公以下文官三品武官二品以上暨外國使臣茶。受茶及坐飲畢。皆行一叩礼。鑾儀衛官傳鳴鞭如初。衆皆興。階下三鳴鞭。駕興。中和韶樂作。還宮。樂止。鴻臚官引王公百官各以次退。

○燕饗之礼及臨軒策士。百僚除授謝恩等之礼。以繁略之。



銅鶴銅龜寶鼎品級山之圖



鑾儀衛の治儀正官整儀尉官是を掌る太和殿の丹墀に配列す

中和殿

太和殿の北正中の南面の殿なり。縦横各三間方檐。圓頂。金鼎。瑣窻各二十にて南北に各三の陛あり。東西にをの〳〵一の陛あり。乾隆帝御題の額は允執厥中の四字なり。凡祭りには此殿に祝版を視給ひ耕藉には五穀農具を見給ふ。玉牒の成を告るときも又爰に進む。

凡耕耤之禮。置耤田於南郊先農壇之東南。中為帝耤。築臺於耤田北。為皇帝觀耕之位。歳仲春吉亥。皇帝躬耕於帝耤。豫期由部奏請。命王三人。卿九人。從耕。鴻臚寺豫於帝耤兩旁東西從耕位立表。以識。前期一日。遣官祗告奉先殿。如常儀。是日。順天府尹設二案於太和殿東檐下。以龍亭三。采亭四。陳設耕具。皇帝躬耕耒耜及鞭皆飾以黄布。嘉種以稲。從耕三王九卿布種以麥穀菽黍。各貯青箱。由長安左門入。至午門外。亭止。府屬官恭奉入左門。至太和殿東檐。次第陳於案。皇帝御中和殿。閲祭先農祝版。禮畢。御保和殿。戸部官舉案入中和殿。陳於殿正中。鞭耒案在前。種箱案在後。戸部禮部尚書侍郎。率屬立中和殿丹陛之南。重行北上。均西面。禮部尚書一人。至保和殿。請駕。皇帝御中和殿。閲耕具畢。奏禮成。乗輿還宮。（下畧）○玉牒告成之禮。畧此。

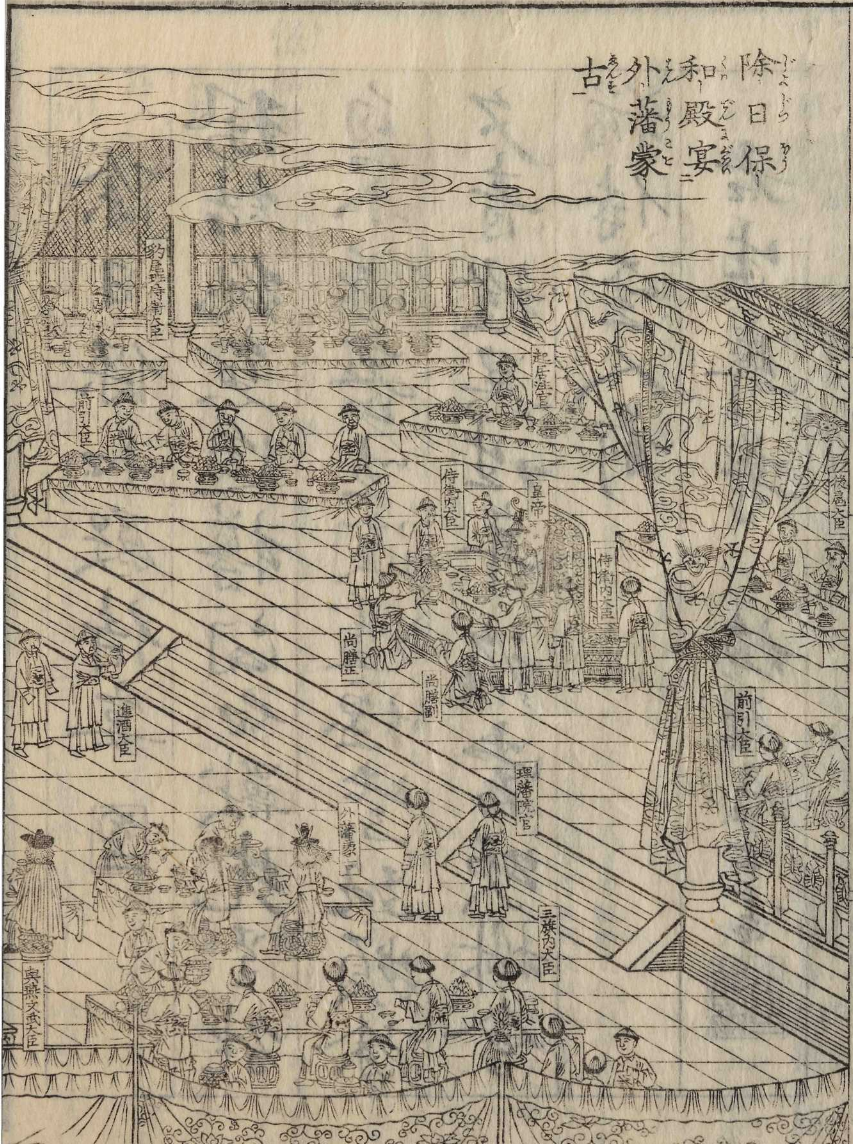
保和殿

中和殿の後。正中南向の殿なり。殿の廣さ九間。前に三の丹陛あり。其陛を和殿と相屬し。後の陛は三成三出をなせり。殿の左右に各門あり。左を後左門と云。右を後右門と云。各南に向ふ。乾隆帝御題の額あり。皇建有極といふ。毎歳除夜外藩を此殿に宴し給ふ。（外藩とは蒙古。朝鮮。安南。琉球。西洋。暹羅。緬甸。蘇禄等の諸外國の王公を謂）又及第せし新進士を此に御して誉給ふ。其外列祖寶訓實録の成備を告儀は陳設あるに纂修官恭しく此殿に進む

除日保和殿侍宴

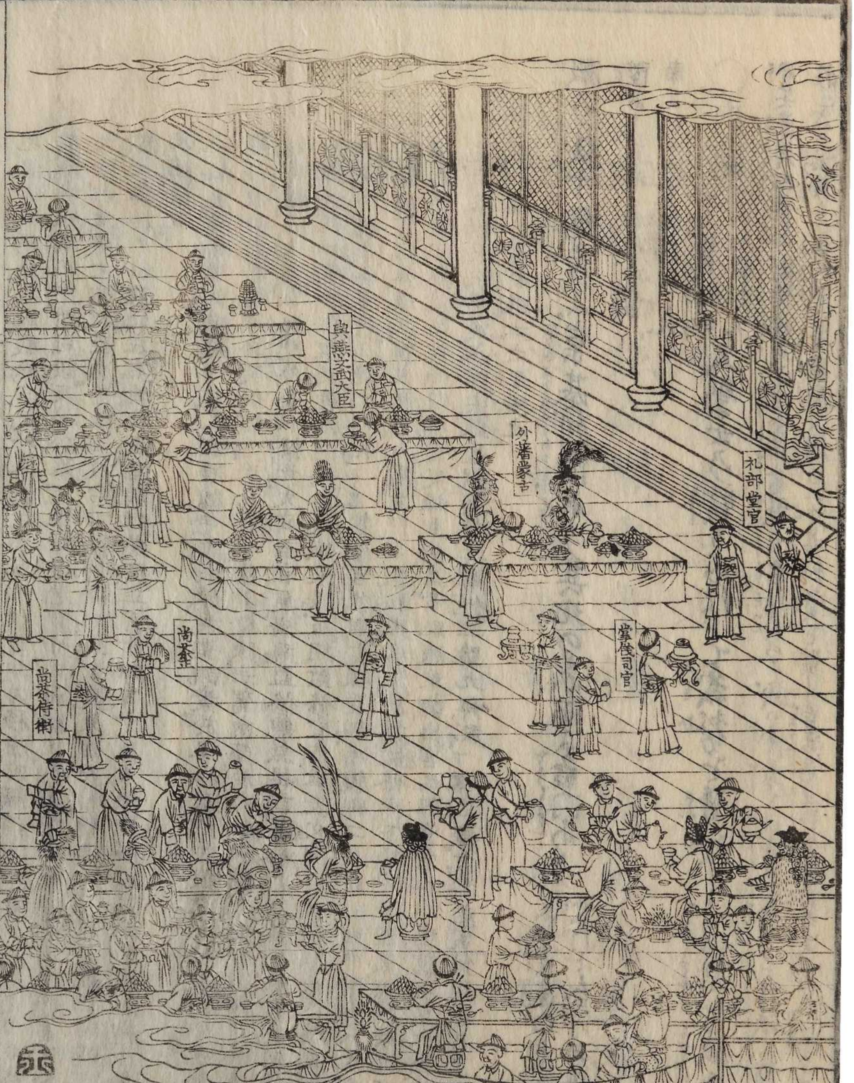
颯結紛魚遶樽開白獸先星能
向樂隊密坐閣爐煙紫路頻除
夕青鐙異往年誰當吹椒會
猶侍至人前

右朱彝尊　梅屋居士書



除日保和殿宴二外藩蒙古一

豹尾班侍衛大臣
起居注官
前引大臣
侍衛内大臣
皇帝
侍衛内大臣
後扈大臣
尚膳正
尚膳副
進酒大臣
前引大臣
理藩院官
外藩蒙古
三旗内大臣
與讌文武大臣


與燕之蒙古大臣
外藩蒙古
礼部堂官
尚茶正
尚茶侍衛
掌儀司官

凡保和殿賜燕之礼歳除日燕外藩蒙古於保和殿前期内務府庀饌請旨命進酒大臣是日武備院張黄幕於殿南正中所司設反坫於幕下陳尊罍卮爵如儀尚膳設御筵於宝座上殿内設外藩王公暨内大臣並与燕文武大臣席丹陛上設台吉暨侍衛席均按翼東西相嚮楽部設宮懸於殿左右檐下設丹陛大楽於中和殿北左右均北面届時行燕礼正月十四日十五日燕外藩蒙古或於保和殿或於行幸駐蹕儀同

凡恭進実録聖訓前期一日礼部鴻臚寺設実録案聖訓案於保和殿正中設表案於殿門外稍東皆南嚮設表亭香亭龍亭於実録館内至日賀明鑾儀衛陳法駕鹵簿於太和殿階下楽部設楽懸於東西檐如常儀王公集太和門外金水橋北文武百官集橋南監修総裁提調纂修各官集実録館咸朝服挙案侍衛於保和殿外内監於乾清門外恭竢咸采服届期監修官恭奉表文陳於表亭纂修官恭奉実録聖訓陳於龍亭各官行三跪九叩礼（中畧）纂修官恭奉実録聖訓鴻臚卿二人前引由中階升入太和殿中門監修官恭奉表文由左階升入殿左門至保和殿各陳於案監修以下官於丹陛東行三跪九叩礼（中畧）礼部堂官奏請皇帝御殿恭受実録聖訓皇帝礼服乗輿出宮礼部堂官二人導駕後扈大臣侍衛扈従至保和殿後降輿入詣実録聖訓案前北嚮行三跪九拜礼（下畧）○択吉恭送実録聖訓於皇史宬尊蔵（下畧）○考新進士之礼略之

殿の後十餘歩に崇基列陛あり。其北の東西に各門あり。（東を景運門と云西を隆宗門と云三門五間也後に陛あり。東西に廻に其正中南にむかふを乾清門と云。）

○内閣（午門の内、協和門の東南にあり）大學士の総る所にして機務を賛理し百寮を表率し
学士兼礼部侍郎、衛侍讀学士、中書、中書舎の官数員ありて或は本章を繙訳し、職掌を稽検し、圖籍を文
綏し或は誥勅を撰し及び交泰殿に納る二十五の御寶を監し、皇太后・皇后・皇太子等を立る時は冊宝を

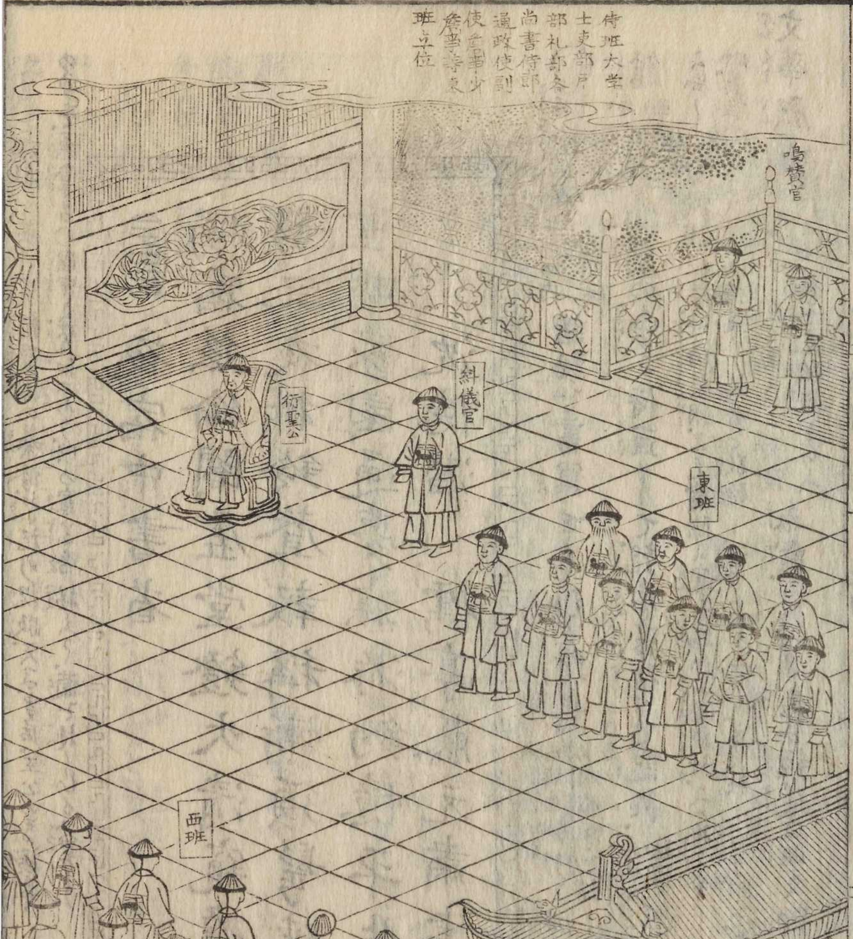
文纂などを撰擬し。其外実録聖訓の纂修。祭祀の祝版。天子皇后。王公の冊文。誥等のるゐを兼掌る○閣中に遊魚缸二あり。明の憲宗帝賜ふて蘭を種しむる器なり。

夜宿中書省
獨宿綸閣虗堂鐙大清窺檐星漢
影記夜柝鈴聲報稱慚須髩踈慵負
聖明家園通夢寐游釣憶平生
沈德潛　檇亭藤元肅書

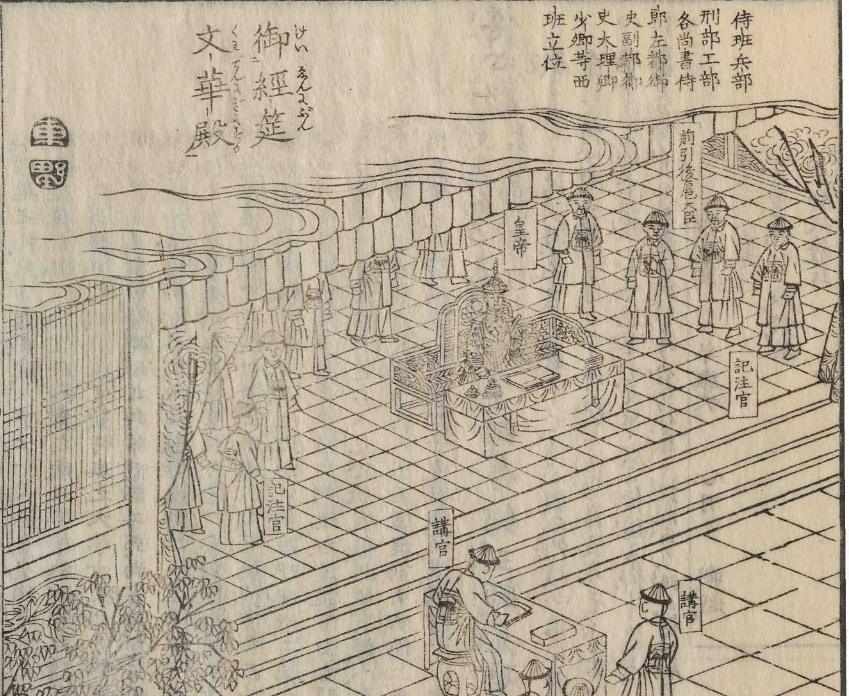
○誥敕房（午門の内東廡に在）誥勅を書寫せしむる所也。（凡昭垂訓則を誥と曰。申明職守を勅といふ。）

○起居注館（午門の内西廡に在）御座の旁に侍直して起居言動を記し。（凡朝會に殿に御し。御門政を聴。郊廟を祭り。祝版を閲。經筵に御し。及び耕耤。視學。外藩來朝。并元歳除に宴を錫ひ。大閲接射。又ハ將に命じて。策を出玉ふるの時起居注官天子の傍に侍直し。綸音を敬聆し。謹でこれを記し。毎月帙し匱函に封て歳の十二月内閣に收む。）

文華殿（協和門の東に在て南に向ふ崇陛九級門三間。後を主敬殿といふ。）毎歳二月八月天子經筵に此に御し給ふ。


侍班大学士吏部戶部礼部各尚書侍郎通政使副使僉事少詹事等官班立位
鳴贊官
糾儀官
衍聖公
東班
西班

御經筵
文華殿


侍班兵部刑部工部各尚書侍郎左都御史副都御史大理卿少卿寺西班立位
前引後扈大臣
皇帝
記注官
記注官
講官
講官
鴻臚官
鳴贊官

凡經筵之礼。至日黎明。遣大学士一人。祇告皇師帝師王師先聖先師於傳心殿。鴻臚官設御案於文華殿御座前。南嚮設講案於御案之南。北嚮。翰林院官奉講章及進講副本。左書。右經。各陳於案。退。記注官四人。立西階下。東面。滿講官暨侍班之大学士。吏部戸部礼部尚書侍郎。通政使副使。詹事少詹事。立丹墀左。西面。漢講官暨侍班之兵部刑部工部尚書侍郎。左都御史。左副都御史。大理卿少卿。立丹墀右。東面。糾儀給事中御史各二人。鴻臚寺鳴贊二人。立侍班官稍後。東西面。均南上。如衍聖公入覲。恭遇經筵。立於東班之首。至時。礼部堂官詣乾清門。奏請御經筵。皇帝御常服。乘輿出宮。導引扈衛如常儀。由後左門出左翼門。至文華殿丹陛上。降輿。入陞座。記注官升西階。入立殿内右楹之西。鳴贊升立東西檐下。贊排班。講官暨侍班官咸就拜位。北面立。贊跪叩興。行二跪六叩礼。畢。鴻臚卿東西各一人。引講官分行。升自東西階。滿講官由殿左門之右。漢講官由右門之左入。立於東西楹之南。東侍班官由左門之左。西侍班官由右門之右入。立於講官後。糾儀官隨入。立東西隅。均東西面。北上。鴻臚卿退立於殿檐下。鳴贊贊進講。滿漢直講官四人。出至講案前。東班西上。西班東上。行一跪三叩礼。復位立。滿講官一人。出就案左。北面展講章。進講四子書。畢。復位。漢講官一人。趨過案左。進講如之。（下畧）

傳心殿（文華殿の東にあり。門を景行門といふ。）皇師。帝師。王師。先聖先師の神位を祭る。（毎歳春秋の仲月文華）殿に御し給ふ時先官を遣して傳心殿の列位の前に籩豆爵尊鐙鉶を供し。太常卿ハ皇帝先て傳心殿に拝する。皇帝親ら諸の神位の前に香を焼き跪拝叩首の礼を行ひ給へ。司祝官恭しく祝文を讀む。祭祀畢て文華殿に經筵に御し給へ。凡太廟社稷天神地祇帝師王師及び先農先蠶を祭り。其外朝廷に親ら行ひ給へる祭祀悉く祝版あり。此に傳心殿の祝文一を記載て其餘を畧く。視者準じて知るべし。

維乾隆　年歳次　二八月　朔越　日
皇帝遣　致祭於
皇師伏羲氏

○**大庖井**　傳心殿のまへにあり。亭を建て其上を覆ふ。明の嘉靖が京師の水品を定めしに。第一。大庖井ハ第二なりといへり。

天を祀る祝版は
青く朱をもて文を
書す地を祭る
には祝版の質黄
色に墨をもて文を書く
太廟と饗殿社稷
とを祭るには白質に
墨書之朝日を祀
れば祝版の色赤く
朱にて祝文を書く
夕月を祭り及び
先農壇并に天神壇
の祭りを祭るに指く
祝版の色白く
墨を以て文を書く
なり

皇師神農氏
皇師軒轅氏
帝師陶唐氏
帝師有虞氏
王師夏禹王
王師商湯王
王師周文王
王師周武王
先聖周公
先師孔子神位前曰兩儀既闢開治統道統之原
千聖同歸建作君作師之極自上古鴻濛而
降迄中授以來
五帝開天乘時迭運
三王治世異尚而同功制作大備於
元公刪述集成於
宣聖繼修明之後仰溯傳心綜道法之詳緬惟典
學羹牆如見會列聖於一堂俎豆用馨紹斯
文於萬禩惟啓承之永賴冀陟降之匪遙肅
薦明禋伏祈
歆格尚
饗

文淵閣　文華殿の後にあり三重にして六楹層階両わかちて上には書籍の庋とし下には方池を状なし石梁一をまたがらせ玉河の水を引て注ぎ入る内に四庫全書を貯ふ又乾隆帝御製の碑記あり乾隆辛丑の歳より経筵畢て講官に此に茶を賜ふ。閣の制は浙江鄞縣范氏が天一閣に倣ひ天一生水地六成之の義をとるよし此外圓明園に文源閣あり奉天に文溯閣あり熱河に文津閣ありいづれも式に倣ひてこれを造る後に四庫全書をたくはふ皆御製の記あり石に勒す

○上駟院署（文華殿乃後にあり西に向ふ）。群牧を掌る（凡内外廐を皇城と南苑に設け盛京。張家口に牧群を設け以て馬を畜しむ。）○箭亭（上駟院署の北にあり南に向ふ）。高宗文皇帝。諭旨乃臥碑をしひに跋あり○御茶膳房（箭亭乃東外庫にあり東に向ふ。）

○三座門（文華門の東北に石橋を架す是に三座の門となし。其ハ東ハ鑾駕房稽房とし西ハ文淵閣に屬ス。）○擷芳殿（三座門の北にあり殿宇三所皇子乃居所なり。稍西ノ所を央を茶膳房の庫房とし其東南に花馬廐藥房あり。）○御藥庫（東華門の内にありて東に向ふ。）○國史館（東華門の内稍北墻に倚て南に向ふ。）

汪師韓史局即事詩　國史明失得取法質不俚豐々二代詳大筆皇古史秘書須著作慎選有所以煒煌五朝業撰述肇本紀惟筆到史難臆説薄文士立言師專門失己選固始黽勉同局事其何稱盛旨

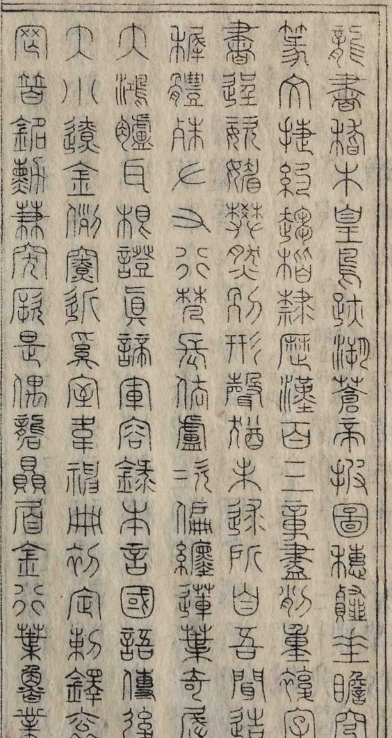
○鑾駕内庫○戸部内庫（爰に内閣の東にありて南に向ふ）

東華門（鑾駕内庫の稍北に在。紫禁城乃東門なり。）

○武英殿（熙和門の西にありて南に向ふ。崇卑陛九級。御河を遶し石橋三を跨らし。前門三間也。）前後二重の殿皆聚珍版を貯ふ。御製武英殿聚珍版十韻の序にいふ。永樂大典の内の散簡零編を捜輯し。並に天下の遺籍をさぐり需め其書總み萬餘種に下らん。集て今四庫全書となり。將にこれ世の稀に見る所。又世道人心に裨あるもの及び考證に備ふべき者とせば。剞劂流傳して後來の學者に嘉惠しん。惟此書數十萬卷剞劂をうるす容易ならじ。宮に董武英殿事金簡といふ者活字版の法を獻じてこれを刻せんことを請ふ。其活字は初め木事にて費のまゝならじ。又歳月を久しくせず。力と労とを速ふれ。考るに活版の沿は宋の慶暦中に畢昇といふ者始て膠泥を焼て活版を作る。又陸深が金臺紀聞に云毘陵人の活版ハ銅を以て作ると。是活版の權輿なりといふ。膠泥ハ燬き易く銅ハ較なり。

ふそれなかりし本を綴るの巧に及ばず。故に命じて木字二十五万餘を刻せしめて武英殿中に於て此に排して数百十種の書人力を費さず容易にして成る。但活字版の名雅馴ならざるを以て聚珍版と改め称すと云。○按るに康熙年間銅字を刻して活版とせし。武英殿に修へ。而るに年月久しきを経るに随ひ官人ら竊に之を盗む者多く銅字の員を欠。時の司寇に其弊を懼る。適乾隆の初年に當って京師錢貴きより則を乞ひ廢銅以て錢となし武英殿の司これを幸のりし彼銅字を毀て錢を鑄んことを請ふ。朝廷是を従うとして許て銅字を錢に鑄さしむ。徒ら上べし。是を悔る限りありて更に錢を贖るの用にたてしが後に千古不滅の銅字空く亡て亡す。惜むべきの甚しきなり。されバ乾隆帝も後にはこれを深く悔したまひ御製の詩の句に毀銅昔悔彼と作らせ給ひぬ。殿の北を浴德堂と云。即修書處なり。

其西の方に○尚衣監（武英殿の西に在。殿宇二層）今此を清字經館とし（清字清文と称する者ハ漢字漢文にあらざる。大清の）斉直りあり。本國滿洲の文字をさして云也。



龍書穗木皇鳥跡御蒼帝授圖穗龜圭瞻宮環[illegible][illegible]生
篆文捷紀鐘楷隷歷漢西三章畫勞量寫字流傳變蒼雲僞
書證蘇緒繁然分形聲楷未錄所自吾聞諸字初出皇楷以
椊禮昧之又云梵氏佉盧二誤偏纏蓮葉奇鬼畏驢居異收句
大鴻臚有根證真譯東容錄本音國語傳復魏號金雜物名
大小篆金縱寶新冥室章禮典初定數譯容及信宮贊成功
圖箸銘勳隷宮殿是偶題鼎眉金云葉書葉御籍成云策書

寅紹旨禮後者推國語笑役萬理書粗具入以致有佐班彌但新字奉敕製四十一卷音語韻韻闕備彷彿羅門二七貫一切同時異名並用禮橫檢三朝史紛綸辭有三四相明以翰林諸命譯書契皇朝文命數紀續志蒙殺圭訓屬龍與諳翻清祖書庫全昌讚聖世自兩文成來欽假遊頒淵德詔臣所專隸經史義例音書編者紀事者者窮幹支注注殿起貳綜博定清文曉知寶鑑對譜諸文二百鑑八州十三類十九紹領三十餘屯目二百類儀瀛輿乜檢龍實呼十二聲碟昉形模點圍循位置四聲韻仄平異物括開閉經生宗諧聲孫生蘊究義小臣目耕乃計倍挈敬苛讀崔彊舌禮徽陸苦容疲偏寄元定經於朗虞衡去平生奇字多匯矣一小技學從步璩幽墳典窺中桃豈昧高蕭童學語已經歲爭知字數生五百應徑試當易蔽積鳥有時或喚嗟開口忽齟齬招答容譏昭雄衛識生蘇木古性橘味遙瞻同輩流絲尺鎔精意推業進於勤不役仍不匠四邑弘文院延裕貢物使何善屢系徑載筆書勤記上鉅義軒屋民察官者治　入淮師韓龍書篇　華亭寅圖

呉長元云烏思藏梵唄従天竺譯来即唐古忒字也元初用唐古忒字（史名畏吾兒即高昌國）後師其意製為蒙古

本朝國書以二合三合成音。與蒙古同。今經館先以蒙古譯唐古忒。復以清文譯蒙古。其源流可見。此詩敘述頗明。故錄于清字經館之後。

○器皿庫（尚衣監の西にあり）○咸安宮（器皿庫の西にあり）八旗在臣の子弟。教習肄業の所也。○箭子河（咸安宮の西北より東南に流れて。内金水橋を經流る。箭子河の名は俗稱なり。）○三通館（箭子河の東墻門の内にあり）○方略館（三通館の東武英殿の後にありて南に向ふ）○回子館學（右翼門の外にありて東向）○緬子館學（右翼門の外造辨處の南にあり。造辨處は白虎殿の後房にあり。○白虎殿は明の仁智殿に係る。俗に機密を辨ずるの所と稱す。今の内務府署即其旧址也。）○内務府署（西華門の内循墻に門ありて東に向ふ。）職司綜理の額は雍正帝の宸翰なり。又順治帝宮中を嚴禁給ふ鐵牌あり。凡内府一切の事務を掌る。三院を隷し七司此に屬す。（。奉宸苑・武備院・上駟院と三院とし。廣儲司・會計司・掌儀司・都虞司・愼刑司・營造司・慶豐司と七司といへり。）

奉宸苑は苑囿の政を掌る。武備院は御用武具兵杖制造の事を掌る。上駟院は群牧の政を掌る。廣儲司は内府庫藏の事を掌る。會計司は内府帑項を掌理し。掌儀司は内府典禮を掌る。都虞司は武職陞補および内府護軍供應畋漁等の事を掌る。愼刑司は内府の刑罰等を掌る。營造司は造作を掌理し。薪炭を兼掌る。慶豐司は館廐に牛羊を牧し。口外牧場孳生蕃息の事を掌。○廣儲司署（西華門の内酒醋房の南墻門の内にあり。）屬る所銀皮緞衣瓷茶の六庫を掌る。凡内府總滙の處とス。（六庫各專司の官あり。物料數まる者は則是を兼掌る。其六庫に藏むる。凡土納せる所。山西よりは貢に潞紬をたてまつり。江南滸江より茶を貢し。外藩蒙古より各其國の土方物或は孫毛或は貂獸狼狐水獺皮等を貢ぐ。又盛京寧古塔。）

よりハ人參を貢し。盛京ハ布帛。鹽鹿を貢し。張家口より紅花。三旗游牧處より羊皮。息草を貢し。均く部より庫に送りこれを收む。又江寧。蘇州府。浙江杭州府等へ織造官を決め置し。龍衣。彩幣。綢段。紗紬の屬ひを織しめ。京師に運送べ。その外江西九江府よも製造官を置し。種々の瓷器を造しめ。京に送り。各六庫の内にわかち收む。凡宮中へ納る諸物は金銀。錢。帛。布。香。紙乃たぐひを銀庫。段庫。茶庫に收てこれを需め。就中。磁。瓷。爵盃等ハ瓷庫に宛て需めおき。或ひハ宮殿寺廟に之を供し。祭祀。茶。菓。花を上るハ茶庫に出す。錢ハ王公大臣を賞賚し。外藩蒙古等は給品を錫へる。其外禁中の典禮。御用の器物悉く廣儲司の掌る處にして六庫より出之。○御

書處（西華門の内。武英殿の北にあり）。恭しく御製乃詩文法帖の屬を刻る。○磁器庫（武英殿の南にあり）○南薰殿（武英殿の南にあり）。歴代帝后乃圖像を藏む。御製の記並に詩あり。外福を勒す

列代帝后の圖像ハ明の時内庫に貯へ。乾隆十四年工に命して重て裝潢をくはへ。移して南薰殿に收む。古皇伏羲氏より下。軸とするもの六十八冊とするもの七巻とあるを。首三先聖。先賢乃圖像ハ別に五の冊と爲し。詳に後至次第甲乙を定め。每歳盛夏には。曝してこれを度し。扁額惟謹。又明の帝后乃玉冊向に工部外庫に貯へしを。今殿乃西室に附藏し。

西華門（南薰殿の西北にあり。即紫禁城の西門なり）。

乾清門 保和殿乃後正中の門なり。南に向ひ五間三門。基陛三出。環ぐに石闌を以てし。陛前に金獅二を左右すべて凡乾清門より南午門までを外朝と稱し。北を内宮とす。乾清門ハすなハち内宮乃正門なり。○凡御門政を此に聴せ給ふ。左右各門あり。左旁を内左門とし。右旁を内右門と云。廡下乃東西に出る門あり。東に出る者を景運門と云。西に出る者を隆宗門と云。東西に圍廬あり。各十二楹（内左門の東。内右門の西にあり。東は以て文武大臣事を奏する待漏の所とし。西を侍衛房及び内務軍機の所とし。直

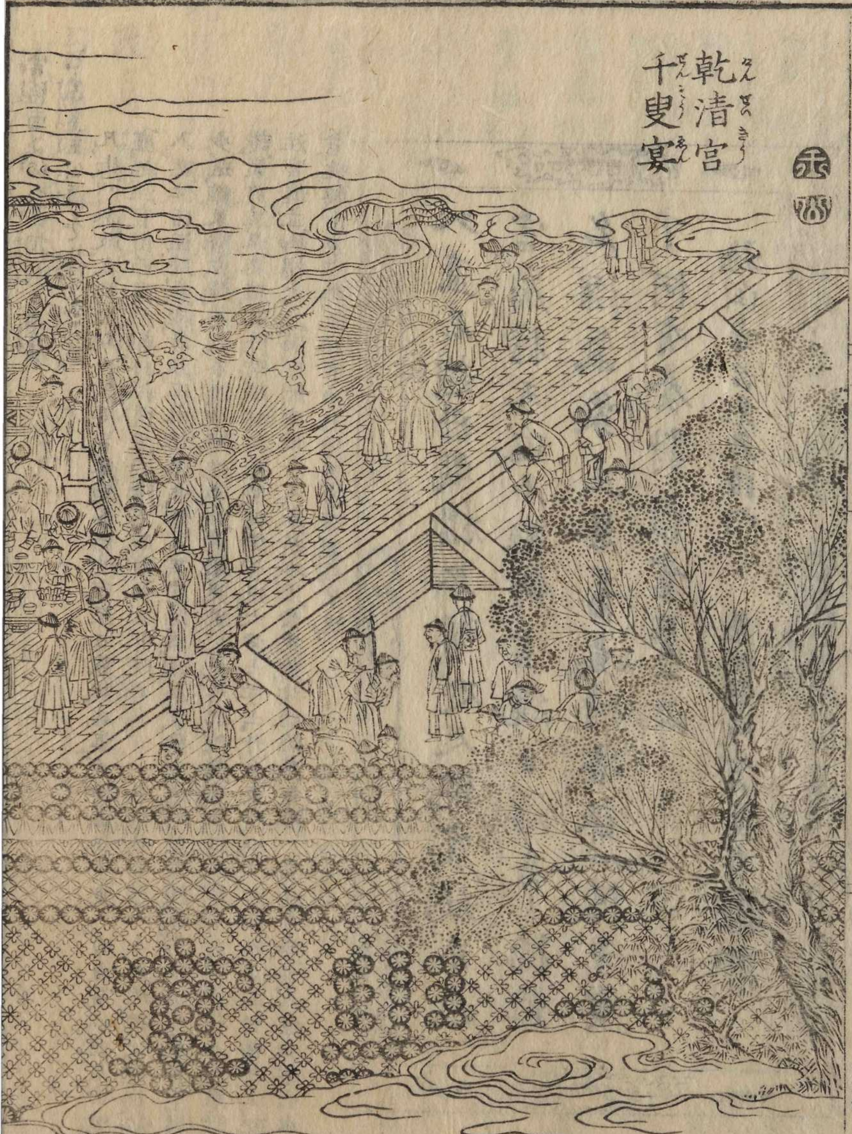
舎路南に向へ其相對る周廬
と宗室王公漏を待の所とぞ。

凡御門聽政之礼。先期内閣得旨傳知各部院官。至日黎明咸集。候侍衛傳旨宣入。遞魚貫以進。皇帝陞座。記注官由西階升。翰林科道至西階下。咸就位立。部院奏事官由東階升。尚書一人奉疏折旋而西。餘入就位西面跪。奉疏者至正中北面進。詣黃案前跪。恭設於案興。少退趨至左楹。轉入班。跪奏某事畢。興。少退。循東階左降。其次各班依序進奏如前儀。吏部引見各部院屬官畢。退。内閣侍讀學士二人升東階。詣案前跪。奉奏疏退降階。翰林科道暨侍衛皆退。大学士学士升自東階。以次跪御榻之左。西面北上。記注官進立御榻之右。満内閣学士一人奉折本至黃案前北面跪奏。毎奏一事。皇帝降旨。大学士学士承旨訖。興。由東階降。記注官由西階降。皇帝還宮。皆退。

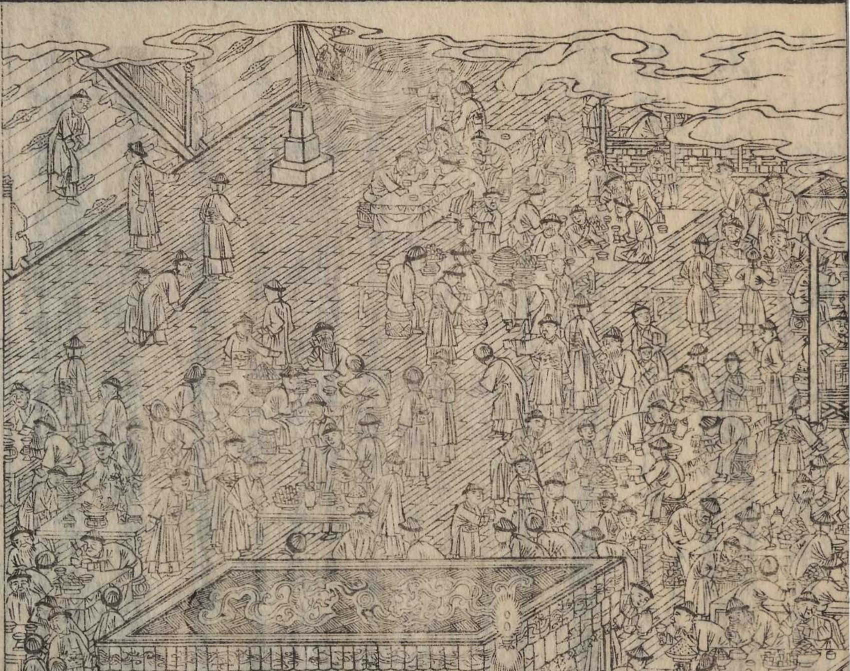
入直初趨丹鳳樓忽驚咫尺覲宸旒未遮
宮扇瞻天近不散卿雲繞日浮帝德難
名深氣象主恩蕃意待洛詠心懷董賈
才何有奏對誰當第一流

施閏章召見乾清門

泉州岸城山月峯書



乾清宮千叟宴



乾清宮 乾清門の北正中南向の宮なり。廣さ九間。縦五間。中に宝座を設く。宮の前皆丹陛にして宝鼎亀鶴日圭嘉量を列ねたり。丹陛の中及び乾清門と相屬る北に丹陛三出。東西の陛各一出なり。世祖順治帝の御書額を正大光明といふ。臣工を召對し。庶僚を引見ある。此宮に御し給ふ。毎歳元旦諸王子に宴を賜ふも又此に於てす。

（康熙五十年。特恩千叟宴を乾清宮に開き。王公大臣より士庶にいたり年六十以上の者すべて召出され。殿の丹墀のめぐりに幕を引まはし[illegible]は數座の氍毹を設け。若干の老人席に列ね宴に侍る。皇子皇孫其筵に臨み御食饌に與り給ひ又自酒をとらしめ給ふ。ぞれ王公大臣は宴を賜ふるは殊なるに。士庶の老翁何の僥倖ぞや九重の內に御靈容を拜し座を賜はし。あまつさへ金杖玉爵席をめぐり。恭しく酒を賜ふ。寔にかゝる養老の遺德にして今も其聖德の。三代の時に讓らざるぞ。盛宴と謂つべし。宴畢て賚物を賜ふに差あり。其後乾隆五十年再び此宴行はる事はたとへる叟老康熙の宴よりも猶多し。其中に年九十有餘の者は皆帝の御前近く召され御膳御酒に侍せり。此時天顔穆にして臣下の禄のたまものありて叟老ら恩を謝して退きぬ。是や古人の所謂朝に接者なるかなし。先年よりの事乾隆に十八年。又王公貝勒より以下に品まで此宮に宴を賜ひ畢て後如意朝珠文綺綃帛銀両のたぐひを頒ち賜ふ。）

○**昭仁殿** 乾清宮の（左りにあり）**天祿琳瑯殿**と名く（宋金元明乃舊版書籍に百餘部を貯ふ）**後殿**と五經華室と名く（岳珂版の五經を蔵む）殿の左に門あり（龍光門といふ 東にいづる）○**弘德殿** 乾清宮の右にあり。宮乃（東廡と御茶房内直房あり）殿の右に門あり（鳳彩門といふ 西にいづる）○**端凝殿** 乾清宮の（精南なる之）殿の南と。舊時自鳴鐘を設る所なり。殿より（南に出）へ出る門あり。日精門といふ。門の南を御藥房といふ。又南を至聖先師及び先賢先儒の神位を祭る室とす。○**上書房**（御藥房の南にありて北に向ふ）皇子肄業の所

なり○懋勤殿（端凝殿の東ふ西ふ桐對し）九圖史翰墨の具皆此殿ふ綜ゑ殿乃南を批本處とす。（殿の南ふ西へいづる門あり。）月華門より入門の南を奏事房とす○南書房（奏事房の南ふありて北ふむかふ。）内廷詞臣の直廬（トノヰノヤカタ）とす（房乃東ふ宮監辦事所あり。）康熙帝乃御書あり

交泰殿（乾清宮乃後正中南向の殿なり。殿の制中和殿ふ同じ。）御用寶璽二十五を此殿ふ收さむ。（殿乃東西ふ兩廡あり。廡ふ各門あり。東ふ出る者を景和門とし西ふ出る者を隆福門とす）○御用寶璽とは天子の印信なり今其二十五の寶璽を左ふ記す

大清受命之寶以章皇序（白玉方四寸四分厚一寸盤龍紐高二寸）

大清嗣天子寶以章繼繩（金方二寸四分厚八分交龍紐高一寸七分）

皇帝之寶以肅法駕（栴檀香木方四寸八分厚一寸八分盤龍紐高三寸五分）

皇帝尊親之寶以薦徽號（白玉方二寸一分厚七寸盤龍紐高一寸三分）

皇帝行寶以頒錫賚（碧玉方四寸八分厚六分交龍紐高一寸六分）

天子行寶以册外蠻（碧玉方四寸八分厚一寸九分蹲龍紐高二寸三分）

敬天勤民之寶以飭覲吏（白玉方三寸一分厚一寸五分交龍紐高一寸六分）

勅命之寶以鈐誥勅（碧玉方三寸五分厚一寸三分交龍紐高一寸八分）

命德之寶以奬忠良（青玉方四寸厚一寸四分交龍紐高二寸一分）

皇帝奉天之寶以章奉若（碧玉四寸四分厚一寸一分盤龍紐高三寸五分）

皇帝之寶以布詔赦（青玉方三寸九分厚一寸交龍紐高二寸一分）

天子之寶以祀百神（白玉方二寸四分厚八分交龍紐高一寸三分）

皇帝親親之寶以展宗盟（白玉方二寸二分厚一寸二分交龍紐高一寸二分）

皇帝信寶以徵戎伍（白玉方三寸三分厚六分交龍紐高一寸六分）

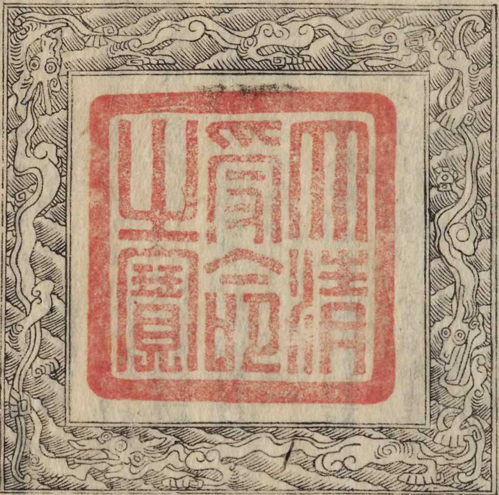
天子信寶以命殊方（青玉方三寸八分厚一寸三分交龍紐高一寸八分）

制誥之寶以諭臣僚（青玉方四寸厚二寸交龍紐高二寸四分）

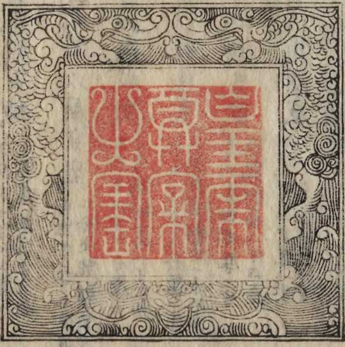
垂訓之寶以揚國憲（碧玉方四寸厚一寸五分交龍紐高二寸）

欽文之璽以重文教（黑玉方三寸六分厚一寸五分交龍紐高一寸六分）

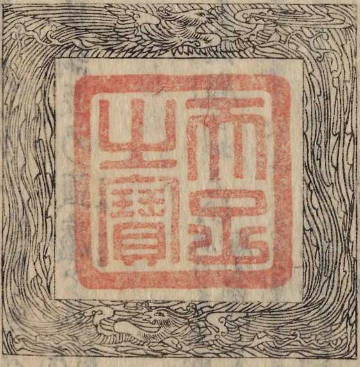
大清受命之寶



皇帝尊親之寶



天子之寶



表章經史之寶以崇古訓（碧玉方四寸七分厚三寸一分交龍紐高二寸二分）

討罪安民之寶以張征伐（青玉方四寸八分厚二寸交龍紐高二寸五分）

勅正萬邦之寶以誥外國（青玉方三寸八分厚一寸五分盤龍紐高二寸三分）

廣運之寶以謹封識（黒玉方六寸厚二寸二分交龍紐高二寸）

巡狩天下之寶以從省方（青玉方四寸八分厚二寸交龍紐高二寸五分）

制馭六師之寶以整戎行（黒玉方五寸三分厚一寸四分交龍紐高二寸三分）

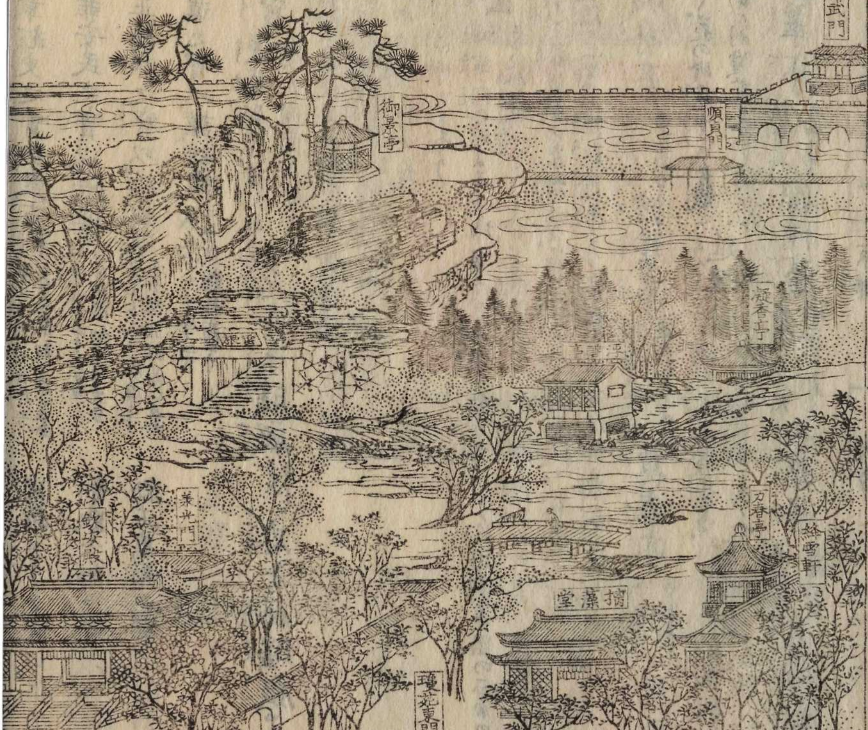
勅正萬邦之寶以誥四方（青玉方四寸一分厚一寸五分交龍紐高寸）

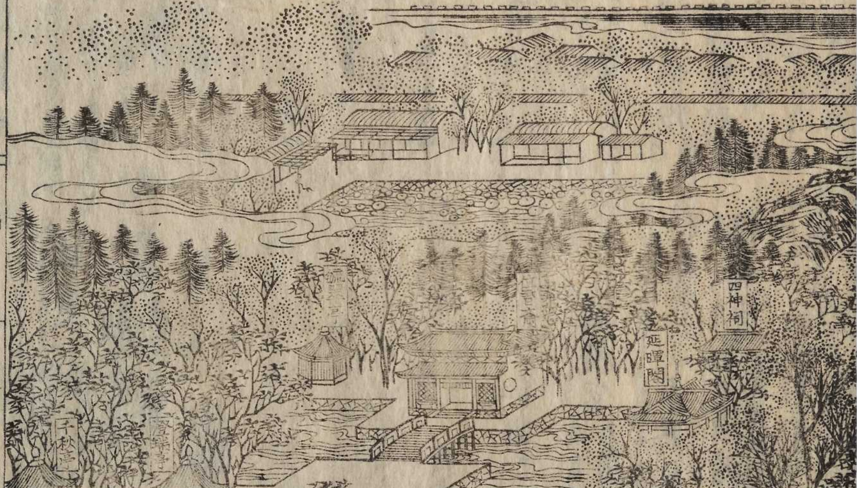
坤寧宮（交泰殿乃後にあり。廣九間南にむかふ）左を東暖殿とし右を西暖殿とす。（東暖殿の東北を永祥門とし。其稍北を基化門とし後に東に出る。西暖殿の西を增福門とし。稍北を端則門とし後に西に出）

坤寧門（坤寧宮の後。正中にあり）

御花園（坤寧門の北にあり。坤寧門と相對する者を天一門とす。則御花園の正南の門也。前に金鑪二をつくる。左に瓊苑の東門あり。右に瓊苑の西門あり。後に南にむかふ）**欽安殿**（天一門の内南面の殿なり。）玄武神を奉る殿の東稍北に石を疊て崇山をなし。石洞あり。上に雲根の二字を鐫。乾隆帝乃宸翰也。山上には御景亭あり。**摛藻堂**（御景亭の東北にあり。堂の前に池あり。四庫全書薈要を此堂内に収む。）**凝香亭**（摛藻堂の東に在）**浮碧亭**（摛藻堂の前。池のほとりに在）**萬春亭**（浮碧亭の南にあり）**絳雪軒**（萬春亭の南にあり。西に向ふ。軒の前に海棠の樹多くみつく。）花の時苑中の奇觀とせり。南は則瓊苑東門なり。**延暉閣**（欽安殿の西稍北にあり。前を凝淸堂とつくる）**四神祠**（延暉閣と相對す）**位育齋**（四神祠の西にあり。前に池あり。齋と[illegible]り）**毓翠亭**（位育齋の西にあり）**澄瑞亭**（位育齋の前。池のほとりにあり）**千秋亭**（澄瑞亭の南にあり）**養性齋**（千秋亭の南にあり）**集光門**（欽安殿の後にあり）

御花園


神武門
順貞門
御景亭
凝香亭
浮碧亭
万春亭
絳雪軒
摛藻堂
欽安殿
承光門
瓊苑東門


四神祠
延暉閣
千秋亭
天一門
瓊苑西門
坤寧門

（て北に向ふ。金鰲二を列ぬ。左に延和門あり。右に集福門あり。ともに東西に向ふ。）**順貞門**（御花園の正北の門也）以上を御花園と稱ぬ。

神武門（順貞門の後にあり。紫禁城北の大門也）

東一長街（日精門の東にあり。南に亘る街なり）

景仁宮（東一長街にあり。前門を景仁門とし。南に向ふ）

承乾宮（同東にあり。南に向ふ。前門を承乾門といふ。明の時東宮と称し、貴妃の居る所とす）

鍾粹宮（同東にあり。南に向ふ。前門を鍾粹門とし）

東二長街（鍾粹宮の再び東南北に亘る街なり）

延禧宮（東二長街にあり。前門延禧門とし。南にむかふ）

永和宮（同東にあり。前を永和門とし。南に向ふ）

景陽宮（東二長街の東にあり。前門景陽門とし。宮内乾隆帝御額の額あり。學詩堂の字あり。宋の高宗孝宗兩帝の宸筆の詩經并に馬和が画ける毛詩の圖と倶に十二巻を蔵む。又乾隆帝御製の詩經あり）

蒼宸門（景陽宮の東に小長街あり。街は西に向ふ。其の東に出る門也）

内庫房（小長街の東にあり）

天穹寶殿（小長街の北に西に向ふ門あり。欽昊門といふ。其内にあり。昊天上帝をまつる）

乾東五所（殿宇五連なり。故に名とし。東二長街の北千嬰門の内にあり）

仁祥門（日精門長街の南にあり。東に向ふ）

齋宮（仁祥門の内にあり。東西暖閣後殿及び東西室あり。凡郊壇大祀行ふ時天子此に齋に籠給ふ。即西室を天子の寝殿とす）

毓慶宮（齋宮の東にあり）

敦本殿（齋宮の南にあり。皇子の居る所とす）

陽曜門（齋宮の東にあり）

西一長街（月華門の西にあり。南北に亘る街なり）

永壽宮（西一長街にあり。前を永壽門とし）

翊坤宮（永壽宮の北にあり。前を翊坤門とし。明の時西宮と称し、貴妃の居る所とし）

儲秀宮（翊坤宮の北にあり。前門儲秀門とし）

西二長街（儲秀宮の西再び南北に亘る街也）

啓祥宮（西二長街にあり。前門啓祥門とし）

長春宮（啓祥宮の北にあり。前を長春門といふ）

咸福宮（長春宮の北にあり。前を咸福門といふ）

乾西

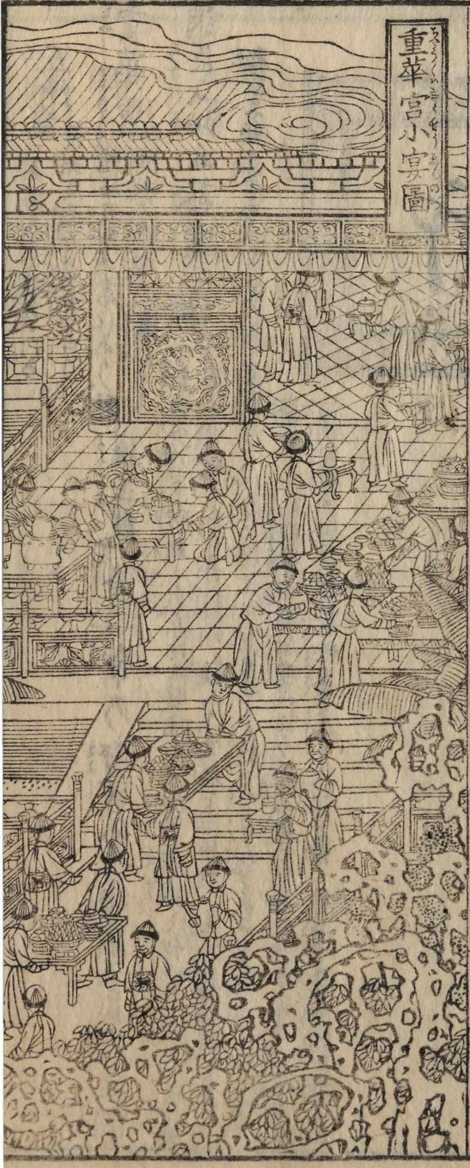
五所（西二長街の北に百子門あり。其北に殿宇五列あり）

重華宮（乾西五所の東にあり。乾隆帝龍潜の舊邸なり）雍正乾隆二帝の御書あり。毎歳正月内廷詞臣に此に茶宴を賜ふ。（宮の前に崇敬殿あり。東西に暖閣あり。後に佛像を供す。両廡あり。東廡を葆中殿といふ。古香齋の額あり。西廡を浴徳殿といふ。抑齋の額を掲ぐ。殿の東西に室あり。東室の額を養雲といふ。西室の額を長春書屋といふ。後を翠雲館といふ。又重華宮の東に漱芳齋あり○乾隆帝御製抑齋の記あり。衛の武公乃抑の詩をとてよりて凡宸章書宮。圓明園熱河避暑山荘等の燕息の處よし此額を題し給ふ寔に聖敬日躋と仰ぐ也）

抑齋

抑抑威儀維徳之隅人亦有言靡哲不愚
庶人之愚亦職維疾哲人之愚亦維斯戾

右衛武公所作抑之詩十二章載在太雅蕩之什今茲抽出其第一章以著抑之義矣若其詳則就本書而視之可也而御製抑齋之記以繫略之



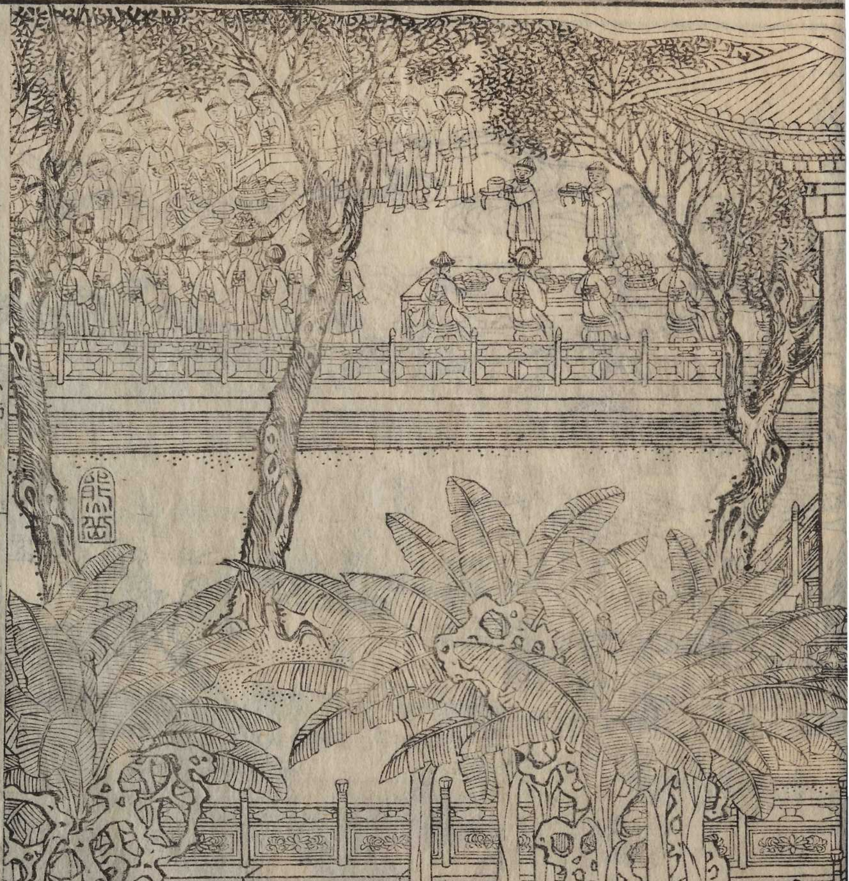
重華宮小宴圖

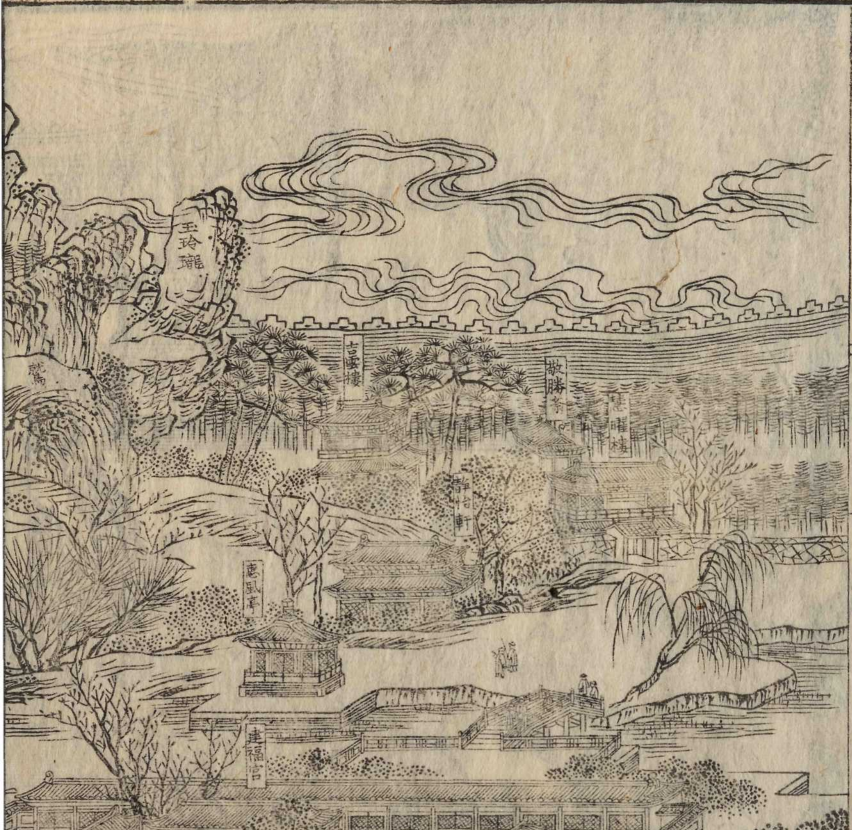
ちようくわきうせうゑんのづ

恭和御製正月十日小宴重華宮
示大学士内廷諸臣元韻　沈德潛

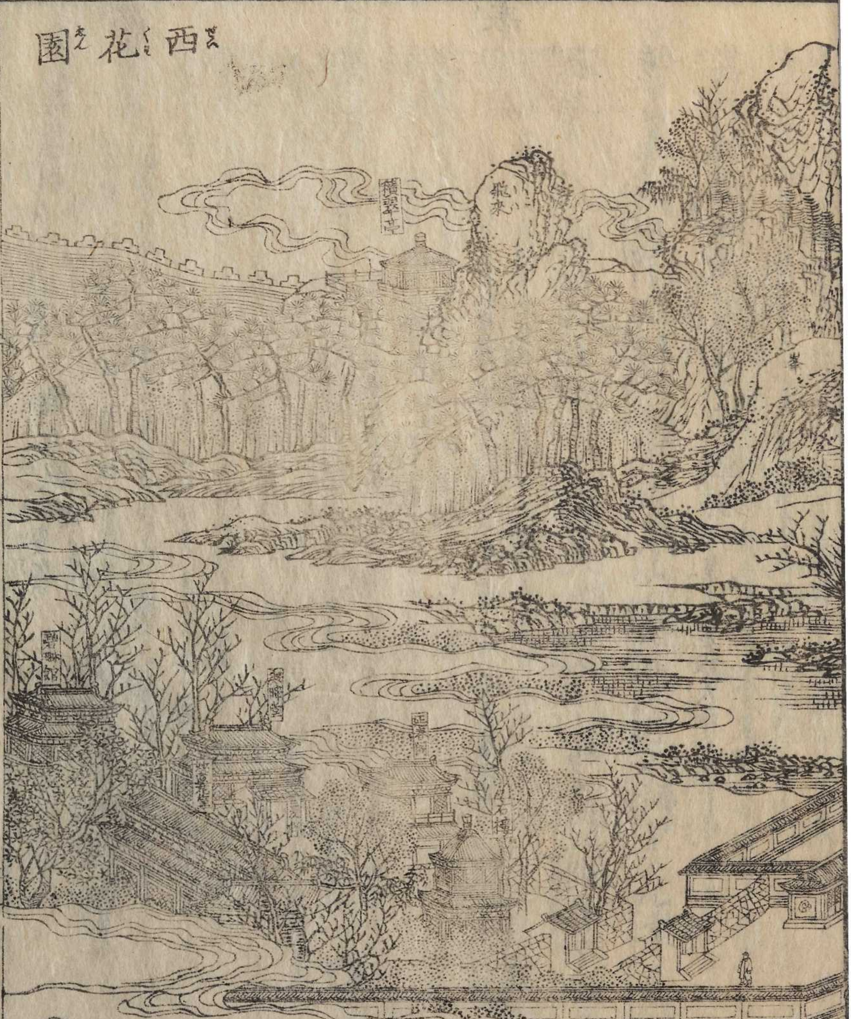
奎来瑤席從容作瑞雪初濃景物鮮歌酒
宿雲直幸無題一經風雅永行紀金椿敦宣
上林紫松鶴下照之年丹極正要何慈之游
河陽稱頌之道

竹窗書　世黄録




玉玲瓏
吉雲樓
敬勝齋
慧曜樓
静怡軒
惠風亭
建福宮
撫辰殿

西花園（せいくゎゑん）



○延慶殿（啓祥宮の西にあり南にむかふ）撫辰殿（延慶殿の後にあり）西花園（撫辰殿の後に建福宮あり宮の後を恵風亭といふ又北に静怡軒あり軒の後を慧曜樓といふ樓の西を吉雲樓といふ其西に敬勝齋あり齋の西を碧琳館といふ館の南を妙蓮華室といふ又其南を凝暉堂といふ又再び南を三友軒といふ凝暉堂の前に延春閣あり其右の方に樓あり前は石を累ねて山となし上に積翠亭あり山の上に奇石多く西に飛來の峯を刻み東に玉玲瓏の峯を構ふ前に石を穿て洞となし南に静室あり玉壺冰となづく又洞口に額して鷲峯といふ）以上西花園と稱ス○養心殿（月華門の西に遵義門あり其遵義門の内にあり西に向ふ）天子宵旰寝興の所なり。殿の東暖閣の内に隨安室あり西室を三希堂といふ西の暖閣の後に軒三楹あり東を無倦齋といひ西を長春書屋といふ○穿堂（養心殿の後にあり）二層殿なり其東室の額を佛日といふ○御膳房（養心殿の南にあり。明の時此所に無梁殿ありて丹藥を煉る所なり。）奉先殿（景運門の東に誠肅門あり其門内にあり南に向ふ前殿後殿均く九間中を穿堂といふ門殿異室なり周垣あり門を奉先門といふ）中に列聖の神龕を奉安し凡國家の大典禮及び乗輿出入し孫に時は則告するのあり。歳時令節朔望には新を薦め忌辰には祭あり日三獻せる事奉る禮の如し。其禮儀供献は内務府これを掌る。（中室には太祖天命高皇帝孝慈高皇后の兩神位を安し左の室に太宗天聰文皇帝孝端文皇后孝莊文皇后の三神位を居き右の室には世宗順治章皇帝孝惠章皇后孝康章皇后の三神位を奉安し左の第二室には聖祖康熙仁皇帝孝誠仁皇后孝昭仁皇后孝懿仁皇后孝恭仁皇后の五神位を居き右の第二室には。）

世宗雍正憲皇帝・孝敬憲皇后の二神位を居す。元第三室には孝賢皇后の神位を安し悉く南に向ふ。元朔聖皇太后聖誕・萬壽聖節・元正冬至及び國の大慶ある時は恭しく列聖列后の神牌を前殿に奉し、祭御食の礼を行ふ。又歳暮・冊立・冊封・御經筵・耕耤・巡狩等の時は祗て後殿に告ぐ。其外立春・端陽・冬至湯等の節に月八日には後殿に香燈をつゝ祭酒・饌・果實を設てまつる。其忌日八日には酒脯の設なし。

寧壽宮

奉先殿の東蒼震門の外重街の東にあり。宮垣南北は二百二十七丈、東西は三十七丈有奇。六門あり。正中を皇極門と云。東に出る者を欽禧門と云。西に出る者を錫慶門と云。又西に向ふを履順門・蹈和門と云。東に出るを保春門と云。○皇極門の内に寧壽門あり。寧壽門の内を皇極殿と云。殿の後に寧壽宮あり。宮のうしろ西に長街ありて、街の東は即保春門、西は即蹈和門、其正中を養心門と云。門の内に養性殿あり。都て此辺殿宇樓閣或は齋或は亭、櫓を並べ甍を連ね、内には新古名家の書画及び珍器宝貝を備ふ（天下の宝を此に集む）。ことごとくは記しがたし。今垣内の宮室殿閣を図して其位置を知らしめ、好事者の観に備ふ。

兆祥所

御花園の東にあり。皇子の居る所なり。

慈寧宮

隆宗門の西に冰窖に並びあり。宮は即其西にあり。東を永康左門と云。西を永康右門と云。正中南に向ふを慈寧門と云。前に金獅二を列ぬ。門内を正殿と云。寶篆駢禧の額は乾隆帝の宸翰なり。殿前の東廡に徽音左門あり。西廡に徽音右門あり。後殿には佛像を供す。殿の後東廡の佛室には[illegible]聖容華の額あり。康熙帝の御額なり。二層の殿あり。東を慈祥門と云。啓祥門と相對す。又慈寧門の東に長信門と云。

○慈寧宮花園の東に咸若館あり。館の左を寶相樓と云。右を吉雲樓と云。寶相樓より南に含清齋あり。吉雲樓より西に延壽堂あり。前に池あり。池の上に臨溪亭あり。咸若館の後を慈蔭樓と云。

壽康宮

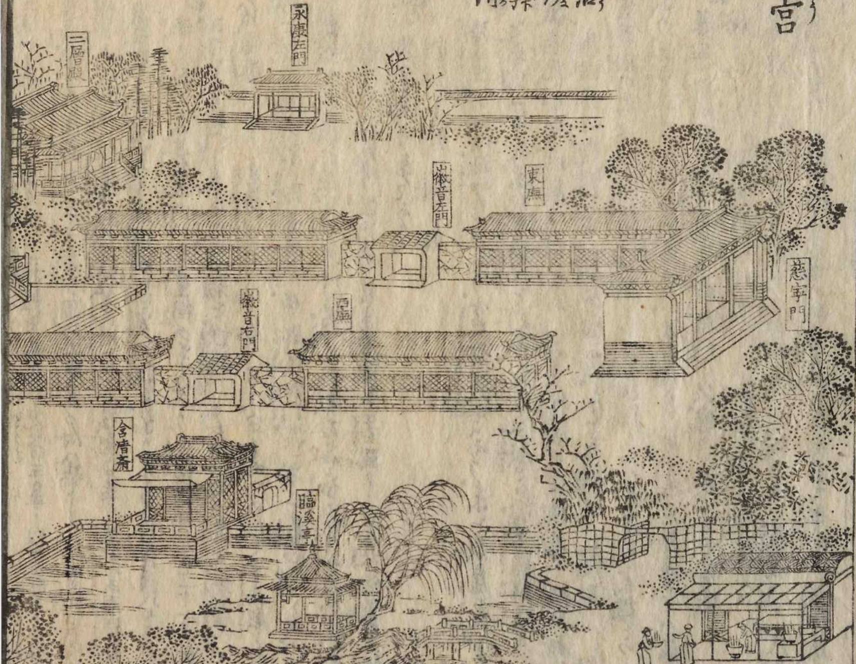
慈寧宮の西にあり。前を壽康門と云。宮の額を慈壽凝禧と云。東の暖閣・後殿・西室ともに乾隆帝の御書あり。

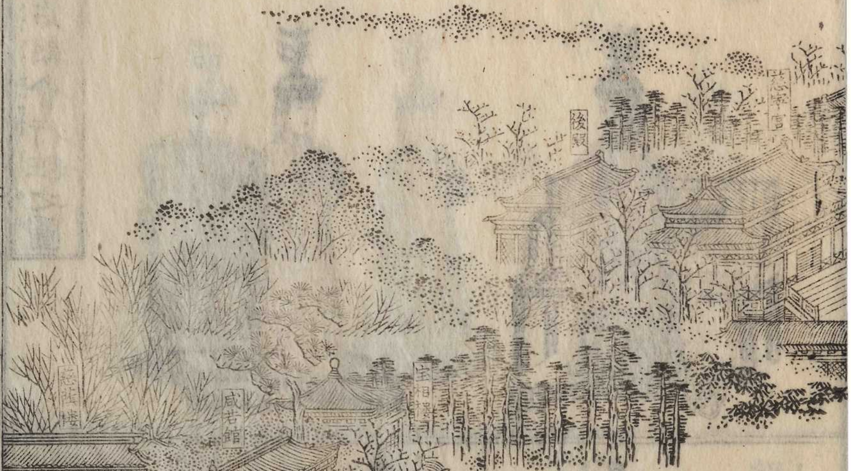
壽安宮

壽康宮の後にあり。東西に長街ありて街の西を長康門と云。元林中宮殿の便道又は溝渠なる。宮女院ありて殿を下る等の時長康門を開きて出入す。○正中南向に壽安門あり。門内を春禧殿と

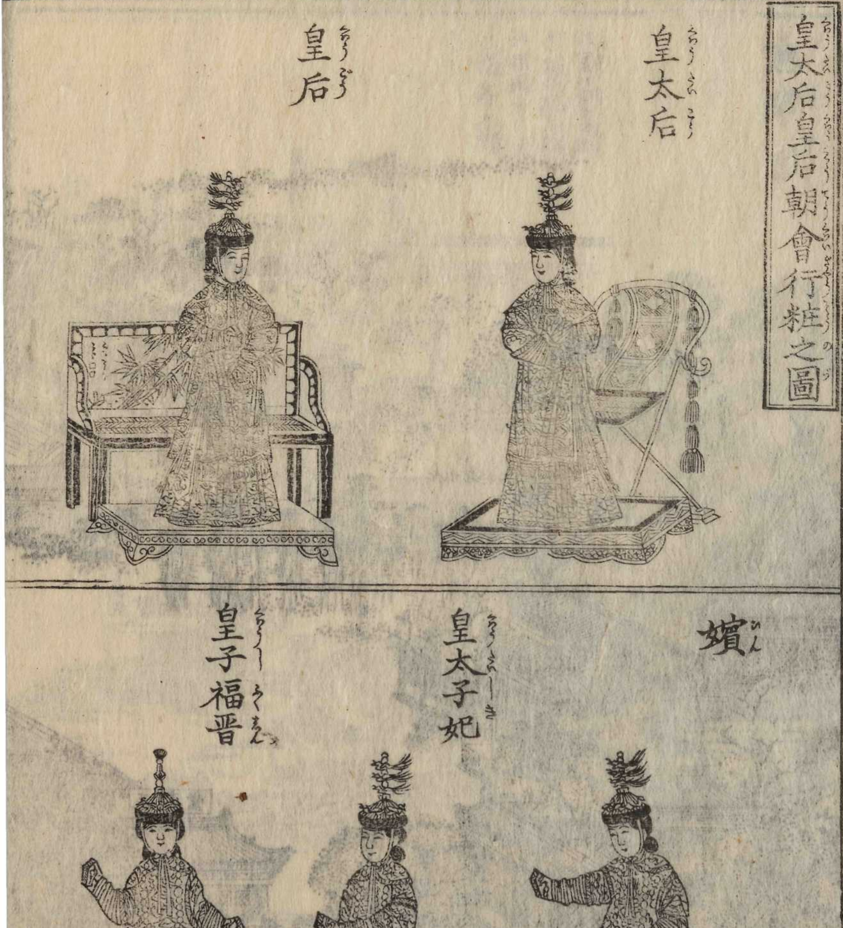
慈寧宮

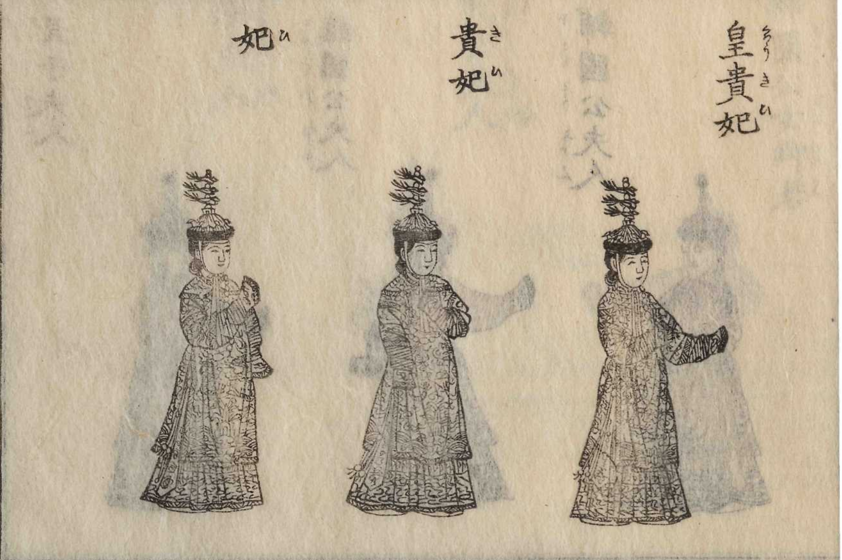
此宮は皇太后皇后の礼を調ひ妃嬪等が拝手を受給ふ所なり

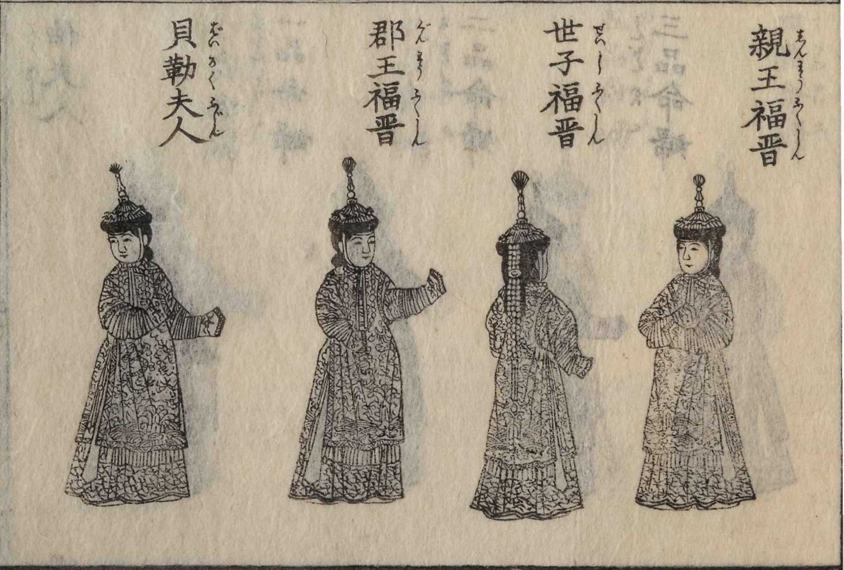

永康左門
三層殿
徽音左門
東廡
慈寧門
徽音右門
西廡
含清斎
臨溪亭


慈寧宮
後殿
宝相樓
咸若館
慈蔭樓
吉雲樓
延壽堂

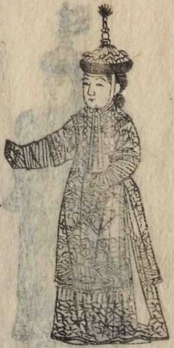
皇太后皇后朝會行粧之圖（くわうたいこうくわうごうてうくわいぎやうさうのづ）


皇太后（くわうたいこう）
皇后（くわうごう）
嬪（ひん）
皇太子妃（くわうたいしひ）
皇子福晉（くわうしふくきん）

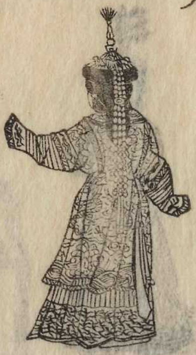

皇貴妃
貴妃
妃


親王福晋
世子福晋
郡王福晋
貝勒夫人

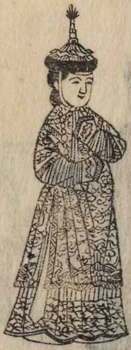
貝子夫人（ぺいつうふじん）



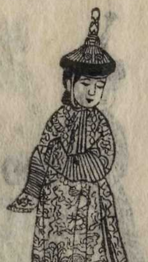
鎮國公夫人（ちんこくこうふじん）



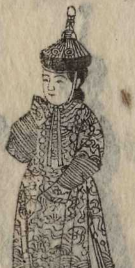
輔國公夫人（ふこくこうふじん）



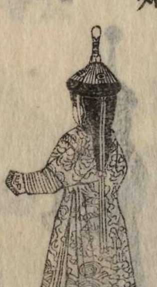
伯夫人（ぺくふじん）



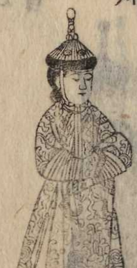
一品命婦（いぴんめいふ）



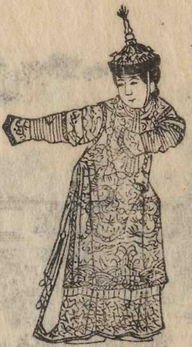
二品命婦（るぴんめいふ）



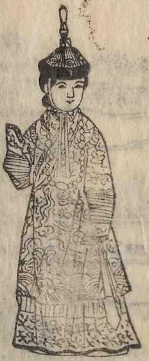
三品命婦（さんぴんめいふ）



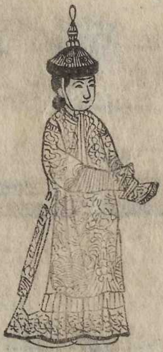
輔國公女郷君



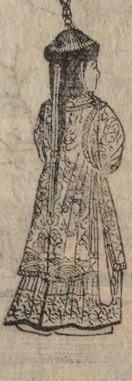
民公夫人



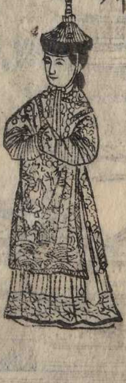
侯夫人



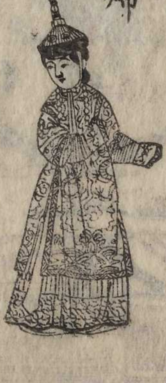
四品命婦



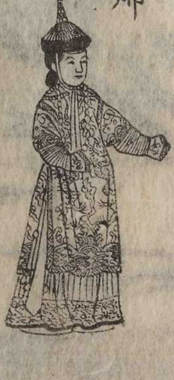
五品命婦

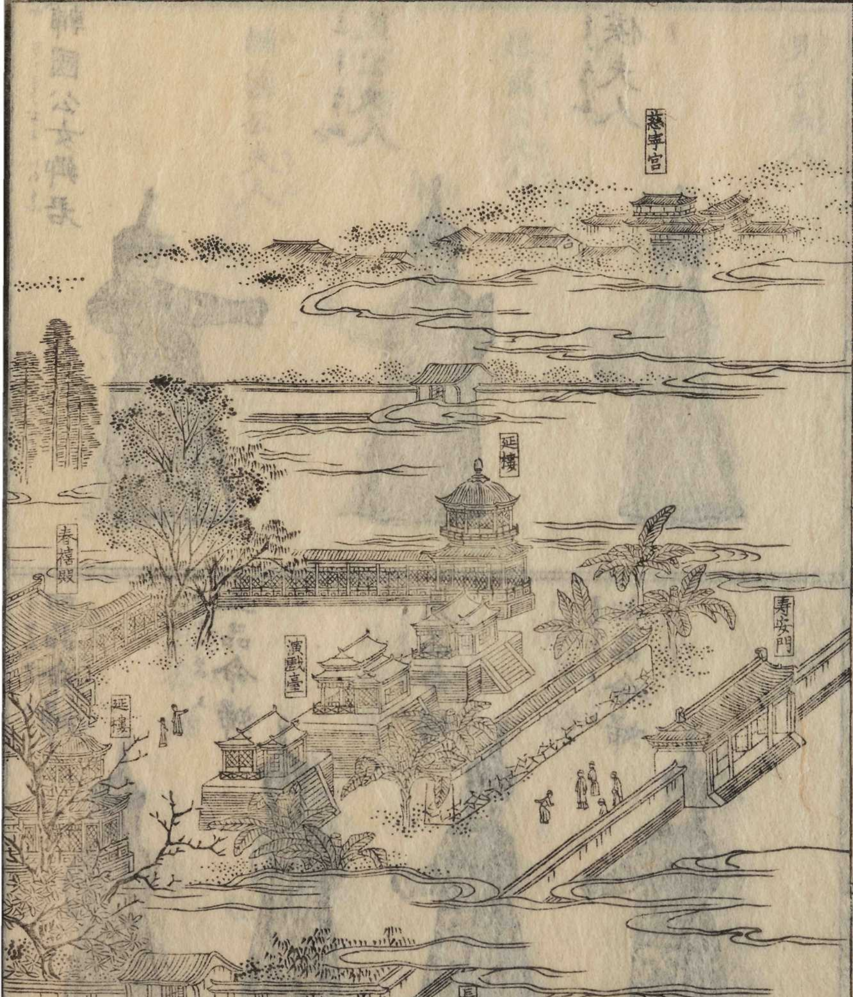


六品命婦

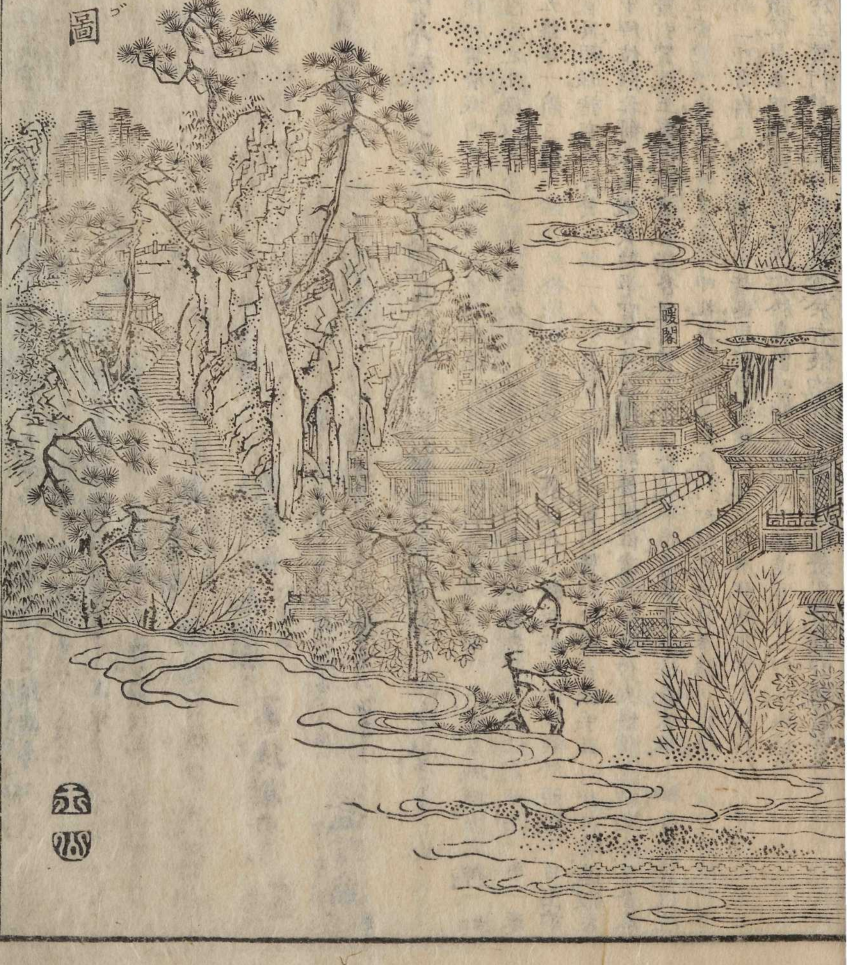


七品命婦




慈寧宮
延樓
春禧殿
壽安門
演戲臺
延樓
長康門

壽安宮之圖（じゆあんきうのづ）



もと殿の後は即壽安宮なり。正殿の額を長樂春暉といふ。東西の暖閣には乾隆帝御書の匾額あり殿前には延樓左右相屬し中に三層の崇き臺ありて演戯殿と名く。後の座中には石を累て山を成し東と後に宜齋といひ西を萱壽堂といふ皆乾隆帝の御書あり。○雨華閣 慈寧宮の東北は即啓祥門の奥なり。其北に南向の門を凝華門といふ。凝華門の内に雨華閣あり佛を供す。西に梵宗樓あり。○寶華殿 雨華閣の後にあり。門を昭福門といふ。殿の後に亭あり。香雲亭と名く。○中正殿 寶華殿の北にあり。佛像を供し内監喇嘛の居る所とし。殿の左に容軒あり。右に無逸齋あり。配殿二。春仁といひ秋義といへり。○英華殿 壽安宮の北にあり。菩提樹あり。（一名畢鉢羅）乾隆帝御製の詩あり。菩提樹は明の神宗皇帝の御母李太后の植給ふ所。李太后は即九蓮菩薩なり。今も其樹尚存せり。二百餘年の物なり。○城隍廟 英華殿の西北にあり。雍正四年勅してこれを建。其祀は則内務府掌儀司これを掌る

建城隍廟於紫禁城內西北隅奉紫禁城城隍之神建永佑廟於皇城西安門內奉皇城城隍之神一如祭都城隍廟之禮歲以萬壽聖節並季秋遣內務府總管各一人致祭萬壽聖節神位前陳帛一羊一豕一果实五盤尊一爵三鑪一鐙二秋祭陳鉶二簠簋各二籩豆各十餘同祭日均設樂於西階下日出前二刻遣官具朝服詣廟內府贊禮郎二人引遣官入廟左門贊引贊盥洗遣官盥手畢引升左階進殿左門就正中拜位前北嚮立典儀贊執事官各共迺職贊引贊就位遣官就拜位典儀贊迎神樂作司香奉香盤進贊引贊就上香位引遣官詣香案前贊上香司香跪奉香遣官立上柱香次三上瓣香畢贊復位遣官復位贊跪叩興遣官行三跪九叩禮典儀贊奠帛爵行初獻禮司帛奉篚司爵奉爵進至神位前司帛跪奠帛三叩司爵立獻爵奠正中皆退司祝至祝案前跪三叩奉祝版跪案左贊引贊跪遣官跪贊讀祝司祝讀祝畢奉祝版詣神位前跪安於帛篚叩如初退贊叩興遣官行三叩禮典儀贊行亞獻禮司爵獻爵奠於左贊行終獻禮司爵獻爵奠於右儀均如初獻贊送神贊引贊跪叩興遣官行三跪九叩禮典

儀贊奉祝帛饌香詣燎所有司奉祝次帛次饌次香恭送燎所引遣官避立拜位西旁東面候祝帛過引復位祝帛燎半贊望燎引遣官出望燎贊禮成引退如儀。

○祀馬神所　城隍廟の東にあり。其路の西連房を酒醋房とし東は即ち神武門なり。

明の時大内御酒房の後墻に長連と名るものあり。三十一門を閲し。また短連と名る者あり。三門を閲し。復に三十し門元武門の西。名廊下家にあり。凡内官答應長隨居此に酒を造て利を射。其酒の色殷紅にして琥珀の光に類す。

紫禁城凡右に記がごとし。其宮殿に執行ふ儀禮は。委く載るものありと雖も多くこれを略す。考訂の疎なるものなれば。覩る者繁きを厭ふて棄んずるを懼るればなり。其詳なる所を知らんと欲ば。大清會典等に參考すべし

唐土名勝圖會巻之壱終